



# まほでし・につき②

～3月・4月まとめ～

謡犬 ユネ

# 「まほでし・につき」の、ひとびと



☆ルメさん…

へっぽこすつとこな

魔法使い

魔法ハウス作りが夢

☆ダイモさん…

ルメさんの師匠

黒豆似

☆カオンくん…

気弱風味の獣人君

☆ヒュドールさん…

水や氷を想い嘆くめらんこりつく蛇巨人

☆ゲンマさん…

ヒュドールさんの弟子

十メうえに独自ゆるい語り方をする

そんなこんなで、

特訓かいしつ!





先月末の魔法発表会をみて、師匠ダイモさんが許可してくれました。

まほでし・下宿を、まじかるハウス作りの訓練として、ここに作ります！

すっここ花人 ゲンマさんが発見し、ワタと獣人カオンくんとがそれぞれ作る、（ダイモさんのお部屋もみかん箱4つ分ほどのを自作するさうです）魔法特訓の場

大昔には、空間が変化して湖の底になる前に だれか魔法びとが 住んでいたらしい？家

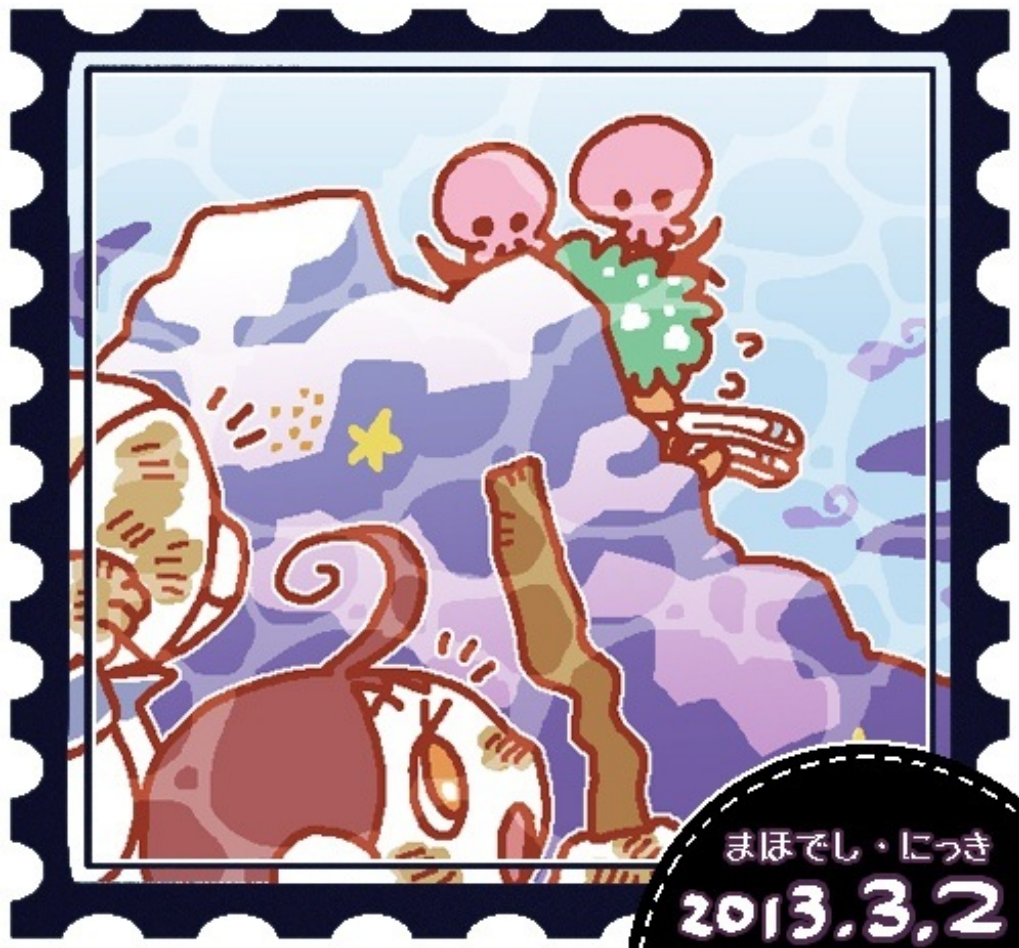
水の光をゆらゆらうけながら、鼻息ふるすろっとるですッ

さあて、どっちのお部屋を2階のうえ／したにするか、コインできめやうっ

ぴんっ ぶくぶくぼこっ...

あ、泥にうまっちった

...ということで、高所恐怖症のカオンくんが1階になりました。



ここがこうで、こっちがこうで、あれっ でも もっと良い形があるかなあ

魔法下宿のお部屋や階段の配置を、ワツとカオンくんであれこれ推敲しています。  
ダイモさんは基本的に見守り、あまりにもオイオイタイムには指摘を下さるというすたんす。

だいたい空間を魔法で掘ったり、また地面に置いた完成だんめん図のところへ戻ったり...

な、なんだか 手とスコップで掘ったほうがいい気がしてきたァ～  
すっからかんのmyへっどをフル集中しすぎて、なんだかふらふらします。

それに比べてカオンくんはさすが獣人さん、衰えないアニマル巣掘り力！  
珍しく、お肌がぼっぼしているねえ～

どぼっく第1段階の一休み中に、岩陰からお花がちょろっと出ました。おや、あれは...  
おお、やっぱり すっとび花びとのゲンマさんっ

ふたりぶん、ふっかふかのタオルをもってきてくれました。

おっはあ〜さわやかなハーブの香りいっぱいだあ〜っ

”べっべつにワガハイも一緒にお部屋作りたいわけではナインだからっですねん！

ただヒュドール先生が頼まれてくれぬかとおっしゃるから...”

ほっぺたと耳をふあ〜っとさせてそそくさ逃亡ぎみのゲンマさんに、2人で「ありがとーっ！」

植物、すんごいなあ〜 まどがでけたら必ず鉢を置こうっ

ゲンマさん、たおる2枚、きちんと洗って返すからね！

+やっぱり、ゲンマさんも一緒につくるかい？てすかさず聞けば よかったかなっ...？



魔法下宿候補の岩をやっぱり手掘りにするために、わりと近くの町に材料を買いに行きました。

魔法を使う方が効率がいいところと、使わない方が効率がいいところ  
どっちもあるんだなあ〜 と、再確認っ

カオンくんは、大丈夫かっというほどに青ざめています。  
どうやら、町に行くのははじめてなやうです。

そして、それまでに森で出会っていた人々も、けっこうなコワモテさんがただったらしきっ

ナンだったらワタシがホウキで買いに行こうかね?ときいたら、

重いものあったら、大変だから...と、付いて来てくれることになりました。  
僕はもっと強くないとだし、とも



カオンくんはやさしき子だし、健康は推進するけど そのままでもいい気もするだなあ  
勇猛果敢な月光のまっする獣人カオンくんというのも なんだか別のお話になっちゃうしっ

でも、なにかヨシッて決めたことが あるんだねっ

ワッはといへば、奇妙な雑貨を溢れんばかりにお買い上げしすぎないようにせんとっ  
(木の実が硬貨がわりらしき 湖のほとりで各種収穫収穫っしました)

ということで、わくわくとふるふるのお買い物みちのり、まだまだ続きますだっ！

ん、右下のまんまろいモノ、なんだっけかな？



魔法使いの里にいたときは、魔法が日常の中だったし、皆使うのだと思っていました。

でも出たら、そうにしても、そうじゃないにしても  
いろんな知らなかった事が山盛りでした。

それでおおお〜ッ！！もあるけど あぎゃっ！もあって、

そうしつつ、見えているこの町のひとも、どの町の人も  
じぶんが壊れず落ち着ける・楽しみな・フル元気が出せる感覚や位置を見出していくんかなっ

それはやっぱり、魔法にちょっと 似ている気がします。

とっところルメさん...各そざい店の場所 わかる?...ルルル とかきこき緊張カオンくん

ん〜、始めて来た町だし知らないけど、大概何とかなるね！と返し、  
まほでし下宿づくりの材料買いだし、いってまいりマスっ





そざい通りをあるくうちに、魔法使いの里に骨董店を営む人がいたのを思い出しました。

コトの目がある人が訪れるまで、とっておきの品はしまっておく  
それでもめききをして集めた魔道具の数々、お客さん達はほお〜っ...と

そして雰囲気から風変わりでうきうきした”お得意さん”が来た時から、  
絶妙な読みと交渉・知識が穏やかかつ知的にひばなをちらす、べてらんずめきき比べが始まるらしき。

ワタは南国の象さんの絵のある古い箱のわごんせーる天然石や魔法っぽい指輪で満足マンタンだけんどもっ

- ・お店1 「うちはツキがおちさうだし、魔女おことわりなんだよしっしっ」される あれまっ
- ・お店2 「あ〜らお二人とも、こちらは木の実でなく本物の魂でお取り扱いいたしますの」

- ・ お店3 「買うのか買わねえのか、はっきりしろい！」に、カオンくん青ざめ&尻尾総毛立つ
- ・ お店4 「あなたはだんだんこの商品がほしくな〜る ほしくな〜る」.....ハッあぶない！

さっすが町でいろんなお客さんをお相手してますなっ...

いろんな種族が昔から 旅に制作に儀式に贈り物にようだてて、訪れては帰っていったんだナ  
店主さん、お強いぞ！

他にも、お茶を出して休ませてくれたひとがいたり、クールなみにっこお店番さんも！  
(飴あげたら今はいいっすと断られてしまったっ)

やっと見つけた木や鉄や石に関する道具のお店では、詳しくいろんなお話が聞けました！

すこっぷの使い方のコワザとか、鉾脈とか、木材は使えるまでにしばらくねかすのです、とか  
ワツのほうきの素材の木の名前も分かりました。

ピーガソス・ナ・チャセテー（懐かしむ羽馬）というのねっ

たくさんのお話たのしかったのですが、流れであやうくとっても高価なぎしき用香木を買わされ  
るところでした。あなどれぬッ

(買ったもの)

- ・ 看板用の板 ・ 土掘り用すぺーど ・ 水中花の鉢植え ・ わら（敷き詰め用）
- ・ 徳用木製白さいころ（木の家具を魔法で出すときに使います） ・ 蜜蝋わっくすおいる
- ・ 窓用の横長吊りタイプれいんぼーめーかー

あとひとつ、水の中でも消えないペンキがないなあ...

さすがに足がボーですが、グリフォンの赤さんがいる定食屋さんで食べつつ足まっさーじしつつ  
カオンくんの鼻からぬけてたエクトプラズムを収納収納っしつつ、もすこし歩きます。

(唐草模様の風呂敷だとさすがになんとかちがうみえ方してしまうので、あんこう型のお買い物  
袋もぷらいすだうんで買いました。たっぷりinでも重くない、しかもペシペシ動くとは！)



水中ペンキ、水中ペンキ...ちょうどよいものがあるやうで、一長一短で

矛盾というおはなしがあるとおり、1点の欠点もないべすとおぶべすと！ではないにしろ、まほでし宿舎に掲げるどどんとした看板作りには、素敵なペンキがほしいなあ

魔法で書いてもみましたが、ず〜っとある+でっかい、というものがまた 出来ないものでっ

と歩いていたら、どじょう？のおじさんと目がビキーッとあいました。

あんたこれどうだい、と出してきてくれたのは、かのらびすらずりの様な水中ペンキ！でも これぐらいするけどね、と提示されたのは ワアな額（単位どんぐり）で...

これは、初のあれねっ 値踏み交渉というやつだねっ

ワッ : ん〜、（空中に数字うかべる）この位は、だめですか？

どぜう判：え？あのね～だめだめ～大変なんだって コレ作るのに

ワッ：でっでは、ちょこっと上のせして...

どぜう判：ん～？おじょーちゃんモットだせない？どんぐり  
こんな機会ないよ～大変なんだから

ワッ：おじさん頼みます！ワッたちまほでし新生活するので、下宿を作りたいんです！  
その看板に、このキレイなペンきを大胆に使って「まほでし荘」と書きたいんです！

どぜう判：へえっ、あんたたち魔法使いだったの！作るの良いじゃん、なつかしいねえ～  
じゃ、これこれこれくらい、にしといてあげよっか

ワッ：ありがとうございましたーッ！

コレくらいにしておこう、というどんぐり額から少し高かったのですが、ココで決め手を見つけた  
ものをおもとめでけた&うへえな値段から結構ひいてくれたので、なによりです。

しんじん価格、というのもあるのかもしれないっ

あんこう型お買い物鞆にもぐつつめこみ、さあもう帰れるねカオンくん...

と振り向いたら、うしろで魚類に大もてになるスープとまっする巨人族になれるスープ、2択で  
飲まされさうになっておりました。

さあさあ、すみません いっいりませんっして、改めてハウス（仮）しようっ



にもつつっぱり運びつつ、帰りの道をたどります。

途中さすがにあんこう型お買い物袋が2ふくろをぺっしてしまったので、手持ちです。  
おわっとカオンくん、もはや歩きながら眠ってるなあ

ワッ重いもの軽いものとか そんなこったあんまり気にせんのだけども、  
お買い物交渉に全然参加できなかったのを気にしているようです。

あるあるよ、とくいとにがて！

お頼み過ぎないようにフィットはしつつ、どうしてもすぽつつをとくいっこがでけたらちょうどい  
いさっ

どぜうさん交渉が途中からじょうねつスイッチonしたというだけで、ワッも交渉へたっぴだがね～

思えば、魔法も値踏み交渉に似ているかもしれません。

無意識にダイモさんいわく”魔法元”と どうかいな？こんなかんじかな？とかけあって、



その分の魔法がかたちをなして

魔法にお話つたえねばっとばかり考えていたけど、魔法の発することばを もっと聞けたらもっとわかるのやもしれない

なんて、もう必要魔法マスター！→魔法ハウス作り！のことしか、考えられナイだよッ

...おや、あのすっとびゲンキな花びと・ゲンマさんがしゅん、と丸まってるなあ...？



買出しの帰りに、ゲンマ君がいました。

どうやら先にいろいろ都合して、僕とルメさんに

”わー尊敬しちゃうなあ、あっぱれゲンマさーん！”

と言ってもらいたかったようです。

それが、スープの材料にされかかったり、赤ワニさんに追いかけられたり、かれのお師さんへの土産を落として割ってしまったたり だったとか...

ためいきをつく頭の2つの花・アリーさんとウームさんに、ルメさんが飴をあげています。  
どこからでも飴がでてくるんだなあ

ルメさんが3人で買出しに行っていればよかったねえ というと、

”あいエイエ、ワガハイにお気遣いなく

どうせ土に埋まってお花生活スタートウするんですからに～”

ゲンマ君、人のやうに動けなくなる日がくるから 元気でありつつ 一歩引いていたのかな

根付く日はやっぱり戸惑いや不安があるだらうし、花同士では話せても、どれがだれか 他のひとからはわからなくて、声が届かないようになっていって

でも、植物と魔法使いが会話を出来る不思議なボードを発明したし、遠い密林から今いる湖まで来たし、魔道書のやうにすごい研究ノートもあるし

テレかくしにおどけているけれど、ほんとうはすごい人である気がします。

それに、コトバじゃなくたって 動物はココに色や香りのかけら、なにか光る場所をきりっと感じ取ることがうっすらとでも できるんじゃないかなとっ

食べるものやすがたかたち、大小がちがっても きっと

いや～しかし、街はちょっと、ニガテだなあ...草原の方がおちつくかも

...と僕がついついつぶやいたら、ゲンマさんすかさず元気

”おっそうでしょっ？なんせ草が原野いちめんスケールなんだからっですよん！”

”でもカオンくん、だれの力もかりずによ～くお話してその腰の小袋買えとったじゃない？”

と、同時にルメさん え、腰？なんだっけ？

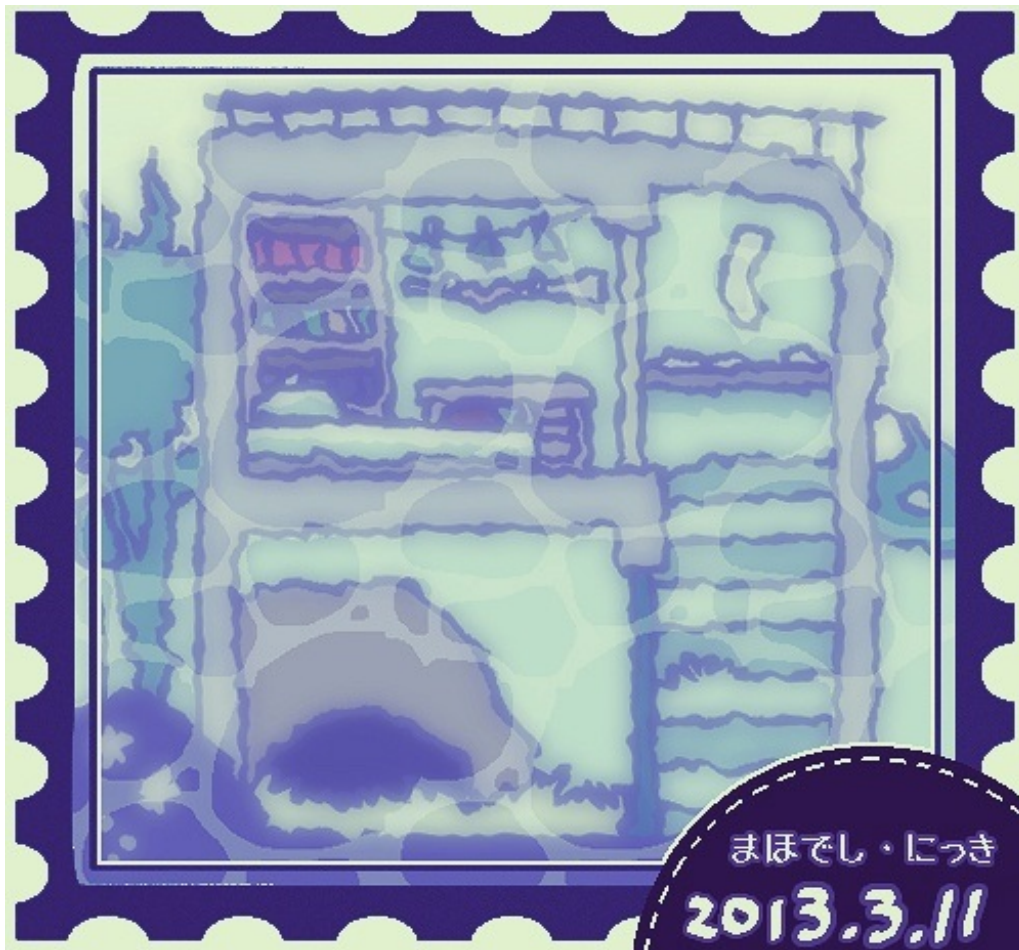
見たら、人波にもまれてペットんこのへんによろになった初遭遇の「メロンパン」6こでした。ああ、焼きたてだったのにア...

すみません、これ全部後で食べるから...と言い切らないうちに、鯉のえさやり状態になりました。

このでっかいワガハイの一！とか、いいもんねこの緑で黄色の星付き もらうから一！とか...んじゃあ、僕はこの真っ青のにしようかな、自分のあおざめたときの顔色に似てるし

のこった一つを争奪戦じゃんけんしつつ、湖へ直帰いたします。

帰るまでに、パン残っていると良いなあ～



だんだんうかんできた、まほでし下宿の空想です。

でもこれにはゲンマさんルームがかけとるから、空想に追加しておこうっ

(旅芸人の人々をみたこと)

・包帯をぐるぐる巻いた透明人間さん

包帯をとると、ほんとうに透明。でも触ると、水晶みたいな表面があります。

少し水を入れたグラスの飲み口をなぞって出る音のやうな声で歌います

でも透明じゃないものもあるんだ、とむねあたりのハート模様から、これまたちっちゃなハートがぱたぱたぱたとっ

・へびさんを首に巻いたおどりこさん

華やかな赤紫&金糸の刺繍のどれすの下の足は、ご自身もへびさんです。

筋肉たくましく、全ての指に意味ありげな、色とりどりの指輪

それではたりないのか、おぐしの各所からも宝石や金が見えます。

この見てくれでびびるだんなにゃ言ってやるのさ アタシのじんせい こんなもんじゃないのよ  
って

...と、真っ赤な唇でにか〜っと すいもあまいもな ぱわふる蛇ネエさん、あっぱれ！

・ふしぎなピアノを弾きこなすおにいさん

ばさばさの髪で、憂鬱そうな顔をしながらピアノを弾くふりをして座っています。  
でも不思議、かれの触れたものからは どんなものからでも素敵なジャズが聞こえます。

木からはスローな、靴からは軽快な、トランクからはあやしげで、重厚な 水はろまんていっ  
くな音たちがはねまわるっ

今はこんな無茶な願いをした甲斐はあったなと思えているんだ  
こんな奴らと旅ができるのだから と まるでおべりすくのやうな、長身さん

・青いライオンのご夫婦

もとは2人とも科学者で、とっておきの一瓶を開けて飲んだつもりが、変身薬だった とい  
ううっかり変身から、皆さんの旅のあらゆることがはじまったさうです

姿が奇妙にか変わったのと同時に それまでの待遇・境遇は一変し  
旅をしながら治し方がし

少しでもココに灯りをともさうと、得意だった歌を 拍子にあわせて荷をたたきながら

立ち止まって よろこんでくれる人もでてきた

まちからまちへ うたうなかまたちが増える

あるときは ひまつぶしにさげすまれ あるときは けいかんさんにあやしまれ  
歌の途中で罵倒され、おさかなの骨をぽいっされたこともあるさうです。  
あーみーさんたちに、今そんな場合か、もんすたーめっなんて、いわれたことも

でも、あるまちで 泣いていた子がわらった 売れなかったお花の一輪ずつ、皆にくれた

歌が終わる頃には、みんな じい〜んと

これだからこそ、やめられないんだ 十分な滋養さ  
われらも、あの花たちでいることに きっとソレまでの意味がある

おじょうさん、あんた魔法使いになれるよ

手をふって 賑やかに 重いわだちを残しつつ きらきらドコカへ去っていきました。

それは、まだ私がおやしきのへっぽこめいど時代  
しくしくしつつ、くしゃおじさんのやうな顔で 落としたお芋を拾い集めていたときのお話

ずどんと”みえていなかったせかい”が、一瞬見えた気がしました。

魔法下宿つくって、ゆくゆくは魔法ハウスをじぶんでつくって、もっと旅するんだ！  
そしたらまた どこかで あえるかな？



まほでし下宿、日々特訓のあとに弟子ずでつくっています。

・私が空想リーダーらしく、骨組みをもわもわ〜っとうかべて、こういうのどうかな？

をみて、カオンちゃんとゲンマさんが そうだねえ、いいけどココはこのほうが？

・ゲンマさんがアレンジリーダー、構造のリベンせいやまほでしならではの工夫で配置案

それをきいて、ワッとカオンくんがは〜い したり、質問いいですか？と確認したり

・アイデア→アレンジから形・掘りおまかせエリア決め→カオンくんは掘削リーダー  
この岩は硬めだから、気をつけてね こっちは階段だから、きちんと幅をそろえやう

にあわせて、各自そいやーっと！



やくわりぶんたんって...おや、こんなところにも「ぶんたん」あった  
やっぱり柑橘系はだいじだねえ あれっ

ダイモさんに、あんたら なんだか魔法すたみな強くなってるぞ といわれました。  
おおカオンくん、尻尾がぷろぺらみたいっ

じぶんじゃよ〜くわからんぬけれど、そうだといいかァ

おっし、湖の下に来たわりとすぐにみつけたお湯の妖精さんのみに温泉でリフレッシュだあっ！



魔法特訓／授業や下宿めいきんぐのあいまには、それぞれの時間があります。

ないとじぶんが迷子になるし、ようしファイるぜいまでのゲンキも補充しきれんし...  
細胞やココロを休める・癒す・事象とりんくして生きてくための、大事なソロひと時なのやも

ゲンマさんは、じゃばじゃば水浴びしています。

魔道書のやうなどとうのめもと植物研究と魔法授業で頭フル回転なので、

”植物に必要&教わった魔法と同じ属性である水とまっさらゴコでふれあうんですからにっ！”

そうか、そういうのもあるのねえ～

でも、ワタの師匠 かえんを吹く黒豆どの？ だからナ～

カオンくんは、やわらかな草のうえで眠っています。

同行始めのうちはうなされていたけれど、この頃は すやすやと

ココロのなかで、なにかだんだん へんかしてらっさるのかなっ

ワツは、おうち伝来のナゾぐるみを作っています。

アニマリットといって、夢の中に出てきた動物を作るので、かわりものヲ いっぱい

”思い出すことにも、作っていく過程にも、できたあとだって みんな意味があるんだよ”

と、おもいでのかなかの おばあちゃんの声

なにかじぶんを みつめなおすときのお供がほしくて、つくることにしました。

みること・きくこと・いうこと・こうどう

現れかたも・広がりかたや変わりかたも・おえかたも

ひとつじゃない それぞれ様々だということを忘れないやうに

忘れて じぶんが びゃーっと ならんやうに

なっても、どっこいせっと たちあがれるやうに

立ち上がれないときも、こうだといひカのときも、

師匠やなかまや 愛用するどうぐよりもちっちゃくてでっかいタッグな 私のみになおともを

おやおや、アタマが師匠ダイモさんぽくなってきとるがなっ

(何でアチャーみたいな顔してんだよとお声がッ してないしてないっ多分！)



ゲンマさんがむっふふ〜んとやってきて、水を生き物のやうに舞わせる魔法を見せてくれました。きらきらの水の雫のなかに、人魚さんのやうな不定形のみになオカタがちらほら

”先生に教えていただいて試したら、できましたに〜  
やはし植物と水は すいぎょ なんだってばっですじゃっ

あっでも術をおみせしたのは、ナイショのしーっですぞっ...ほいじゃあに〜”

はいなわかったーっ！でも、師匠さんは弟子さんの魔法状況、丸分かりでないかなっ？

そうかあ、やっぱりそれぞれ向きの覚えるじゃんる みたいなものがあるのね

カオンくんは、じょうずに宙返りをしながら、へんないきものに変身しました。

”ぐっ...着地あぶなかったなあ...あ ルメさん、僕仔ぐま になっていますか？”

小さいきものになら、なんとか変身できるようになったようです。  
ただ惜しい、ちょ〜っと長いのと、色が紫色かなあ

ワツはといへば、ダイモさんに師事しておる意義を考えていました。

魔域のひとは、みんなコワイかもっと思っていたら、  
いがいと がつんとしてて あったかいし、

オート火加減の術とか 熱水を出せるようになったりして、（塩も）

よく考えたら 料理も、花火も、おうちや街の灯りも、太陽（恒星）も かえん なのだから と  
っ

くわえて、なにやら性格的にも ない要素じゃないのかもっと思いました。

旅の空を飛んで、素敵なハウスで、そこでいろいろつくって、思って、動いたり眠ったり  
その動力案にも、灯りやごはんにも、ゆくゆくは

いま出来るようになりたいことが いまはあやうげな糸で つながっていくのかもっ

ということで、きょうは石さんたちを魔法でもちあげて くるくるいつまで浮かせていられるか  
を試しています。他のまほでしずもふんばり中、そしてワツもふんばり中！

けいぞくは ぱうあー なりっに なりたいなっ



大体各自のお部屋が掘れたどーっとなり、あったか鍋会をもよおしました。

いやぁ 特訓のあいまにコツコツ 汗しつつざっくぽっこ掘って、よくここまできたか〜  
おかげで土ってこんなかんじ！というのは、よ〜く覚えました。鉄色の貝が出る出る！

下宿の裏に放したら、知恵の輪のやうな形になって泳ぎ去りました。

さてさて、鍋はお味噌仕立ての春モノ&おとうふ入り！湖ミネラルinの水草も入っています。  
しっかりきっちり、いただきますっ

”ワガハイがはじけられるのもアナタガタであってこそなんだからっでふみ〜もぐもぐ アツッ！”

これいお豆腐一点食いはいかんぞい！

”うぐぐ、具材のみなさん 僕なんかの滋養になってくれて 本当に有難う...じわ〜ん”

そうかぁ、アニマルさばいばるでは3日以上ご飯なしは ざらだからなぁ

”お〜い ヒュドールは部屋に入れないし、入れる姿になったら もろにDX版アナコンダだからいい  
って。まぁ後でゲンマに持たせよう

しかしまぁ、おまえたちよく掘ったなぁ...”

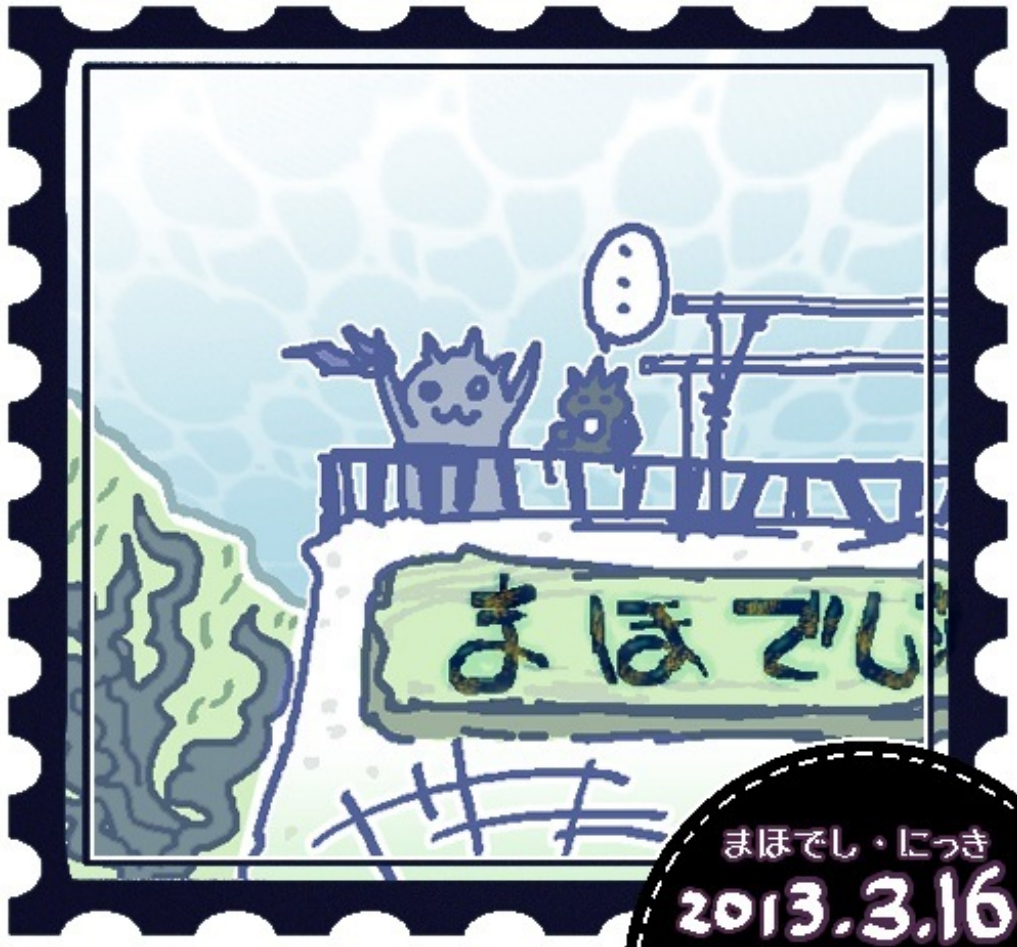
天井をひたひた触っているのはダイモさん。

実は私たちが掘削しておるうちに、かれも自分のお部屋を作っていたらしき。

小さいお姿になっちゃっているから、さらに大変だったのかなっ

そんなこんなで、私がぼんやりしとるうちに皆 おわん3ラウンド目に突入っ

ハハ私のおとうふ&ヒュドールさんへのお土産分はキープしとくれい！



ヒュドールの弟子のゲンマが寝入ってしまったので、あいつには俺が土産を届けてきた。

オートひかげんを保った鍋物と、はら&睡眠満タンでくてんくてん のゲンマを

あいつが嘔吐するところとトウフ好きであることを、初めて見た気がする。

これも、へっぼこ効果というやつ なのだろうかっ

最初はどうなることかと様々な意味で思ったが、ルメもカオンもだんだん しっかりしてきた。

あいつらが一人前の魔女&獣人のオサ?にでもなったら

ゲンマが土に埋まって植物人から植物になるときがきたら



俺やヒュドールは、はれて自由となる が、  
その後は？

とりあえず 元の姿には戻りたいが それも なんともはや

ま、まあまだまだ なんだけどなっ！

まだ特訓のめにゆーもじゃんるもわんさか、伸びしろや注意すべきコツも覚えてもらわにゃ！

ちょろっとこぼしたらヒュドールのやつ、お前かわったなあ と 和やかな表情で  
いや、おまえも変わったよ 魔域でド迫力ばとるに明け暮れていた頃からは

気分はわるくない。

だが、屋上の 初めて見たら割と怖い人形 俺そっくりだな...

弟子達に聞いたら、コレはマスコットキャラだそうだ。

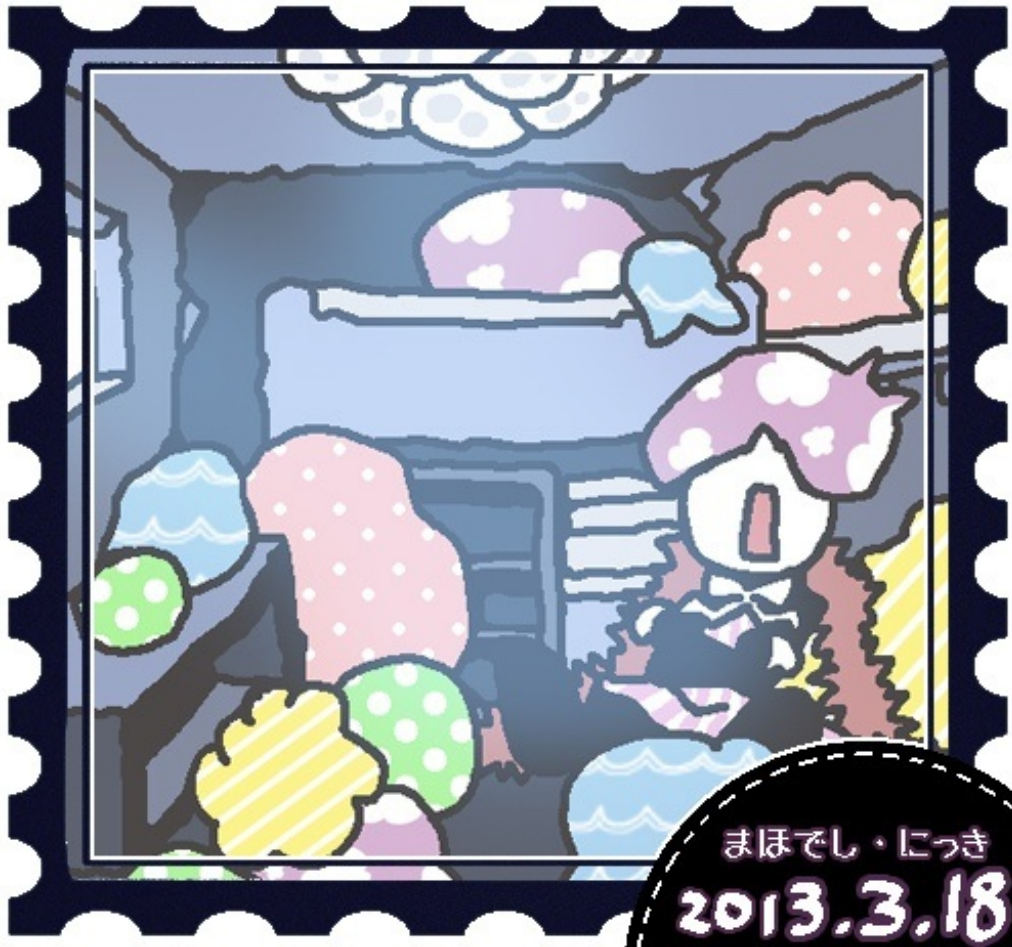
マスコットは元々、幸運を呼ぶ？などいわれたちいさなお守りの意味

どんどん増えていきますよ！とにこにこしとったが

俺、このままいくと がつんとかえんを噴出する黒豆みたいなおじさん になってしまいそう...

魔な要素を忘れずに！をモットーに、あしたも特訓特訓！

その前に、この人形が座る椅子でもこしらえてやるかっ



魔法特訓のあいまにトンテンカン中の魔法下宿・ワタのところは あともうちょっとです。

魔法で基本の家具は出しましたが、細かいものの配置がどうも、決まらナイ...  
知恵熱だしつつ考えていたら、ルームがアイデアあれこれだらけになってしまいました。

ぐふう、こうなってしまうと 一気にだつりよくしてしまいます。

いやいやしかし、案1こ1こ合わせて・別立てて・保留にしていけば、たぶん片付く！  
ここで使えなくなつて、別のものを作るときに使えたり するかもっ

そんな方式で、ひとつひとつ検討しました。

紫の案もいいけど、全体的にこすつがデーシかなつ 黄緑のは、まだまだ魔力がたりないけど、  
椅子の案は素敵 水色の案をベースにして、黄色とピンクの案をいちばんきらつとする一部ずつ

組み込んでいけば...

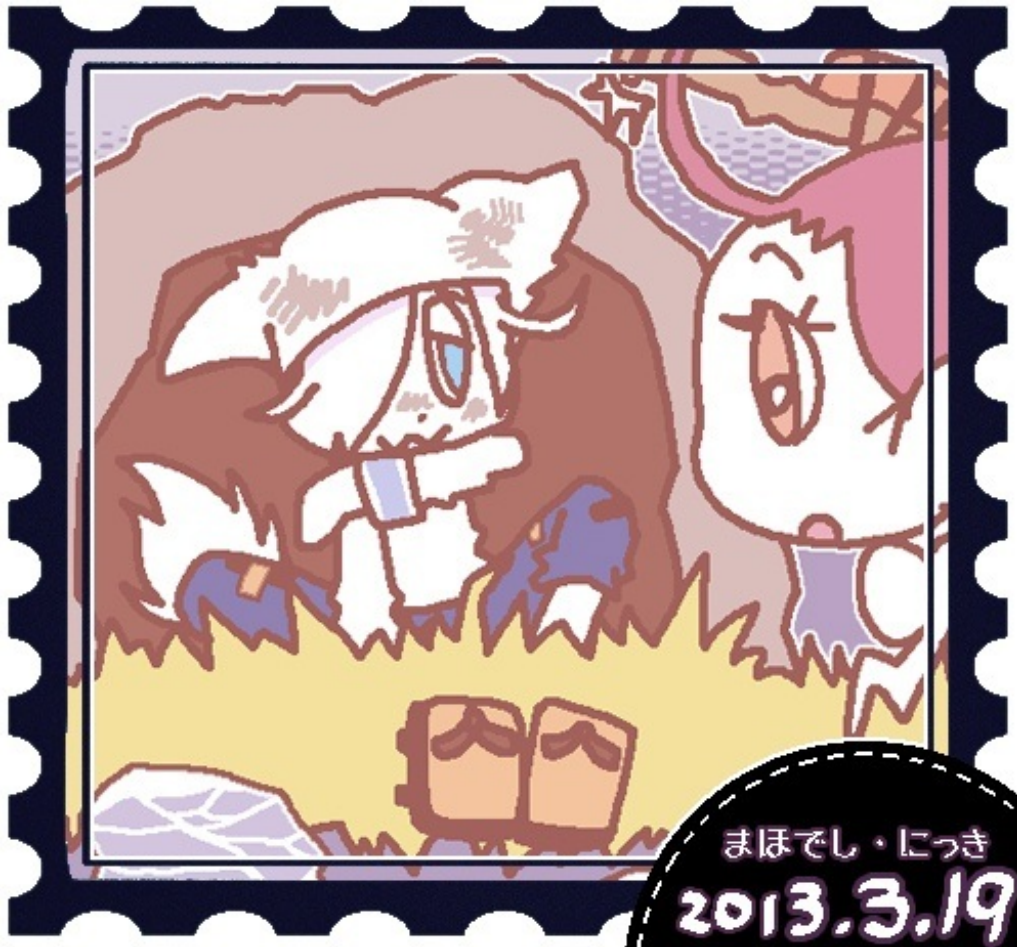
疲れたぞ～のいたわりのじかんも、ぼや～んの時間も、考え沼にはまっている時間も、あれ、こういうことかな？までの だいじなじかん

まちがったら、ふい～して、また歩く

もよもよ歩きつつ、いろいろみききして、みききしたくなくなったり、よかったんだと思ったり どうしてだろう を、inからout sideから どうかなっといろんなジャンルからためつすがめつして、あるく

それだけっていわれたって、やっぱりすっぱり そこから、それから！

ようし、パステルカラーもよもよ あと5・6ケ分くらいですぞっ



まほでし下宿・カオンくんのところ作りも、あともうちょっとです。

やはり巣穴は土がいいやうで、お部屋掘りで出た土をかまくら状にかたどってあります。

”温度が一定だから、わりと快適だよ～”

らしき。おおっなんか地面断面図とともに聞いたことあるかもっ

森の巣もこんなかんじ+狭くなったらもう少し掘ってる一む拡張 していたさうです。  
なんだか、そういうハウスも良いカ～

土ついちゃっとるけど、巣づくり獣人っこ げんきさうなお顔です。

ちなみに大部分が巣穴とわら敷きだけんど、ほかの家具などは置かないのかなっ？

と聞いたら、捨てられないゆえ、逆につとめて新モノをおむかえしないやうにするらしき  
しっかりしとるカア～

ワタシは同じモッタイナイ気質でも愛着わんだーらんどすぎて立ち入り禁止状態になりさうっ  
なにしろ、はじめてのセルフカスタマイズるーむなので！

(じたくにはmyるーむ無いし、住み込みお屋敷の屋根裏部屋は物置兼ゆえ)

ようし、次はゲンマさんにお話をきいてみますぞっ



ゲンマさんるーむづくりも、あともうちょっとです。

参考資料や図鑑・事典・辞典類、研究道具がまだまだ がらごろっ

灯り代わりの南瓜が天井に育っていて、あちこちに草花の種も  
植物たちのために川風の水場も作るらしきです。

今は書棚をくみたて中なのですが、おやっあぶないっ！  
石の板を支えきれなくて、いっしょにつまづきさう

...と思ったら、カオンくんがあっ気をつけて と ホイっときゃっち  
端と端で持ち直して、ぶじに組めました。

”ふう～...なんというかたじけなっさぶる...ありがとうございましたに～  
どうも本日、葉緑素のはたらきがアレでっ

お礼にルメさんにはカラフルりらくすなお花の種、カオン君には快眠なハーブの種ドウゾ！

でも、いつか土に植わっちゃうキテレツ植物人に、なぜそんなに優しさ分配をっ？”

ゲンマさんは、メモ片手に興味しんしん。んん～、「なぜ？」とな？

そのあと皆で考え込んで、同時におなかが鳴ったので小ちょこれーと大福&玄米茶でゲンキ補給しました。（魔法で割りとうまく出せた！後味が塩だけんども）

なぜの理由、こういうこと なのかなっ

じぶんでじっくら&エイヤーッじかんも、かけあいふむふむ&わっほい じかんも、  
のちの・なにかの たまもの なのやも

そんなこんなで、花咲くのが楽しみな種とる一むが増えました！



石の板をうまくきゃちしたことから、カオンくんはゲンマさんと よくお話するやうになりました。

お話をしているおこらせちゃったり、別の意味になっちゃったり、わからなかったり  
たしかに、ちっとむずかしいねえ

でも、新しい風がふいてきたり、そうだったんだッと広がったり、なんかフイッわいてきたり  
も、また

お話しとる じかん、してない じかん  
いつもどっちかだけしとるわけではないから、どっちかがきらっとするのかなっ

きゃっきゃしとるゲンマさんに、尻尾ふいんふいんしとるカオンくんに...  
楽しいが1個増えると、ぽっぷこーんみたいに なるねっ  
それをたべつつ またぽっこぽっこ作りつつ



ふあにんぐのじかんも、こわにんぐのじかんも、むりにんぐのじかんだって、  
どんぶらこ えんやこら していったりするんねっ

ようし、ワタもまほでしだっ魔法ハウスまで ふんばるからね！

(ということで、きょうは魔法語の挨拶のとっくんをしました。  
前回より意味がわかってきました 洞窟甲殻類さんのことばっ)



”ふは～いやはや...それにしても、ルメさんは”

魔法特訓終わりにじゃばじゃば顔を洗ったり拭いたりしとったら、ゲンマさんのお声。  
なんだろなっ？

”ワガハイのかあさま（現在草花状態）に、形がにてるなあって！  
まあ、かあさまの方が、おひさまの下でふわふわほろほろ～っとしてたけど”

そうかあ、ワタしほろろんというより、すっとこだしなあ て、おいおいっ  
しかし、カオンくんはピンときていないやうです。

”ん～、うん ルメさんは、どこことなくピントロングに似ているかア”

び、ピントロングとは？

”ああ、あの全体的にモシャモシャしたン？というお顔の哺乳類さんですに～”

なるほどね！

それでは、きみのばあいは？

”そうだなあ、筋肉質で、咆哮に迫力があって、黒豹っぽいよ  
巢立ちの儀式では兄弟皆ろわいやるまっちでマットに沈んだわあ、あ、3番目の姉ちゃんがカウン  
トとったんだけど...”

なんか、アタマに浮かんできました。

うへえところどころxの目をしておる今期巢立ちのご兄弟数頭と、涙しつつコーナーによじ登りム  
キムキガッツポーズとともに激励の吠えを発する、ぶらっくぱんさーな女性

『いいかいおまえたち、世界の猛者と戦い、あたしに勝てる力で帰ってきな！  
この連戦の覇者であるあたしに打ち勝てるものこそ、次の族長となるだろう！！』

きんきんのライトをあびて、どこからともなくマイクを持っていて、観客さん大盛り上がりで...

あれ、しかし

カオンくん、このは一どすぎる伝統をどんげかしたくって、変身や獣人基礎体力特訓をしている  
のかなっ？

カオンくんが族長になったど〇ぶつのもり的な獣人ワ方も連想しつつ、じわじわダイモ師匠のル  
ームがきになりつつ、さあマジカルごはんタイムだーっ！



水馬さんの群れが、遠くを泳いでいきます。

もーっとか、きゅうーっとか、クジラさんのやうなお声だなあ

なんだか眠れなくて下宿の屋上に行ったら、ゲンマさんとカオンくんがいました。

おまけにマスコット人形さんも、のしんと椅子に座っておられるっ

”僕はたまに なぜ僕なんだろうと思うことがあります

でも 尾はしばしば 2拍子になるんだ”

”ワガハイきっと 土に植わったら今のことを植物通信で伝えたおしますからに～

あなたがたのことも、先生やそちらの黒豆 いや、お師匠どののことも初”

ワッは珍しく コトバを発することができませんでした。

何か呟いたら、なきたくないのに涙がドゴォしさうだったし、そんな状態のワッに2人ともナンと言ったらよいやら だし、弱音を吐いてしまったら立ち直れなささうだし

いちどだけ連れて行ってもらった古い公園遊園地の、メリーゴーラウンドを思い出しました。

お菓子のとろんとした香り、お花やきらきら飾りに包まれたペガサスさん・ゆにこーんさん  
それに華やかでどこかものがなしい、こびとが奏でるやうな甘い音楽

円形の 光のまう風の劇場を 幻想のひと馳せするやうな とくべつなじかん

作ってもらった洋服を着て やっとあれだけ乗れた だから今も、だいすき

カオンくん、ゲンマさん、ワタシのまほでし・下宿、それぞれ出来ました！



まほでし下宿・ゲンマさんる一むが、できました。

水のめらんこりっく蛇巨人・ヒュドール先生の秘密屋敷の一室を魔法部屋で借りているので、

”このお部屋は植物人研究の拠点ですからに～”

らしき。

- ・ おおっ床はお花や草でいっぱいなのねっ（そのうちキノコもでてくるらしきです）
- ・ 壁の様子は、故郷の遺跡の床石のもよう
- ・ 天井の南瓜は星空のやうな光をひろげます
- ・ ろっきんぐちえあ、ぴったりだねっ（あれ、お子どもの用ご飯ちえあかもっ...?）

・ぐえっしさうだった石版本棚にも、しっかり分類配置された図鑑や研究道具がずらり

だんだんひとつひとつが、（これ作るときこうだったか）と思い出されるモノになるのかな

いや～、土&壁岩の掘削から魔法下宿作りを始めると、きますなあ　じわ～んと...

あっぱれ、ゲンマさん！



まほでし下宿・カオン君の一むも できました。

星柄の壁に、みに洞窟っぽい巣も完成！ 藁敷きがあったかげだねっ  
何か作ったり、下駄の修理をするための石の机も どっしりしております。

青めのうのやうな机、なんだか創作意欲がっ

朱色のきんぎょも、一匹すみついております。

しんぷるも またひとつっ

加えて、湖底は珍妙な石が多いから、早朝のおさんぽタイムにてよく眺めるさうです。  
そうして、水中洞窟と藻の道をぴよんと一緒にやってきてしまった、石さんずっ



”石さんたちは時とお話を沢山しているの、色々訊かせてもらうんだ  
でも、かれらの好きなお茶菓子、なんだろう...?”

ひとまずお茶はしみこませたり、なぞシステムで吸収なさるさうです。

やっとだれにもとられず、素敵な不思議とおはなしたいむ はじまるだねっ  
何よりだナァ～

あっぱれ、カオンくん！

みんな それぞれ

ルームもそれぞれ

それぞれのぱーそなるな りらくす・るーる・思い出が、ねむっている

ここまほでし下宿も、そうなるスタートなのねっ！

ということで、我がる一むの灯りも、も少し手直ししてみます。



ワツのところも、できました。

ふるさと伝統手作りの模様を置いていると、遠くてもなんだかホッとします。

ねぞうがわろしゆえ、横にも柵をつけなくてはっ  
水中花さんは、ゆらゆらゲンキに光ごはんをたべとる様子。

配置がむずかしくて、なんどもずのう内お部屋迷路の夢をみました...

魔法ハウス第一号は、ちっちゃめに作ろうかな？と...それをすきるupに応じて巨大化迷宮化！  
りんきおうへんな軌道修正も、不屈のがつつも、ゆるたいむも、きっとドレも、だいじ

岩を掘って形取りをしていたころが、昔のやうです。（今月はじめだけども）

ようし、青菜のお味噌汁でかんぱいだーっ





ダイモだ。

俺の家はまほでし下宿に対して虫こぶのやうなサイズになったが、今の体には丁度いい。

魔法特訓がすんだあとの溶岩1杯とおつまみの石炭...

今から楽しみで口から溶解液がでさうな心地だ。

おや 卵のぼっちゃんじょーちゃん いやいや、ここはピザ屋じゃないんだ  
他をあたっておくれ

おや えびのご婦人 いやぁゲンキな卵たちだね えっ4つの味を1枚に？  
すまねえな、ここはピザ屋じゃないんだ あぁ、本当に

しかし、今日はこのあんばい、5セット目だなあ  
こうなったらもう いっそ、何か作らねばならんだらうか？

作るならトコトンな情熱だ まず素材の探求、選択...

ああいかん、俺まで魔法っぽくない方向に行きそうだったっ

そんなこんなでピザを食べたくなかったので、作って食べることにした。  
カリッとした タングステンと、とろ〜り易融合金のピザ！

したらばっ



できたて作りたてのmyるーむで、色々かんがえることが増えました。

初めてのぱーそなる空間！は、とんでもなく静かです。

湖の底にあるので、りらくすな水泡の音も ぽこもこ ぶくぶわ してきます。

これから作る 今度はmy魔法ハウス どんな形がいいだろうか

遺跡？草原の人々のテント？ろぐはうす？宮殿みに風？おもいきって数寄屋造り？ダンジョン？

ココのなかでワタシはからだのない透明な”視点”で、思い浮かべたハウスらが並ぶ通りを見下ろしています。

ひとつごとに環境や天候がちがって、ひとつごとに異なるルメ人形が跳ね回って暮らしています。  
草むしりをしとったり、お茶を飲んでたり、冒険しとったり ばるこにーから景色をながめたり

...

冒険者、守り人、お店、つじうら、護衛、かたりべ、薬局、修理、おーだーめいど

街やこれまででみた魔法おしごつが、人形さんたちに反映されています。

ぱっとすぐでてこないけど、旅でみたこときいたこと しっかりコロ粒子になってたんだなあ

これから、きつとなれるやうに そのつど思ってよし、と あるいていこう

...のやうなことを考えていても、お顔はごはんタイムの鯉さん なんだろなっ

ぽるるんとまた泡が登っていく しずか～なひとときです。

ハワっお腹すいてきたなあ

まほでしーにっき

# 3月のまとめ

言葉  
コネ

まほでしールXさんの夢は  
空飛ぶ魔法ハウスです。



ワガハイは  
水と光を  
いただきタイツ☆



僕はやっぱり  
土田の葉が  
おすじいさ〜



な〜んこっ  
おち屋じゃ

たから

この夢で  
トコラの  
しーが！









まほでし下宿もできたし、日々魔法を教えていただいているし

おまけに初期にはロケットほうき飛行したり、アタマからしおみずを噴出させたり...

ありがとうございます！（と、ごめんなさい！と、）これからも宜しくお願いします！

の気持ちをこめて、何かをふれぜんとしたいね、と弟子めいつで話題にのぼりました。

あったかくって、ほお～っとなって、しみじみしてしまうような なにかを

感傷の水棲蛇巨人さんと、れっかを秘めた漆黒の（黒豆のやうな）魔物さんの、喜ぶなにか

なにかって、むずかしいなあ

でもしっかり贈りますぞっ

(↓えいぷりるふーる、皆のついた うそ集)

- ・ダイモ師匠：俺の本体はマントル
- ・カオンくん：尻尾は個別のいきものなんだ
  
- ・ゲンマさん：あっルメさん、お背中で見事なランが開花ですに～
- ・ヒュドールさん：すまん、わが子ゲンマがおかしなうそを...

全部に「えっそうなの!？」してしまった...

不覚、じゃないっ!



特訓がはやめに終わり、さっそく師匠にプレゼントするなにか物体の検討中です。

私は魔法を教わっているのだし、なにか習った事に関わるものがないかな？

↓

カオンくんも手伝ってくれることになったので、せっかくならコラボをっ

↓

家庭科魔法と変身のコラボって、なんだろなっ？

ねんのためkeep out!の綱を張って、ついん会議をしていたら、師匠がラクラク綱の下を通過してやってきました。

何やら怪しげな術やってるねおまえたち、との問いに　そうです　でも楽しくなるんです！とっ

ふーん...ためてためて、で　放出だからな　カオンはグッて宙返るんだぞ　に　ハ師匠！とっ

おやおや...これはもしやっ

”で、おまえたち何の魔法練習してるの？”

”それはひみつです！”

お、おお そうなんだ...と、圧倒されてドコカへお散歩なさるわれらがお師匠さん

ごめんなさい、まだまだ時がっ

しかも私はへっぽこどんがら魔女ゆえ、うっかりが無いとも限らない...

プレゼントお渡しの日まで、辛抱我慢あんど集中っ！



師匠さんにさぶらいずぶれぜんとを、のソワソワで魔法特訓がどうもうまくゆかず、散歩して気分を入れ替えて来い ということになりました。

あわわ、でもソレだとお渡しするまで1ヶ月間おさんぽ生活せねばならんわっ

それに、どうせならヒュドールさんにもお渡ししたいっ 似ていつつ、それぞれが和むもの

ごによごによいろいろ考えていたら、歌がきこえてきました。

おやっこの湖セイレーンさんもいらっさる？と思ったら、その人は木でできているらしきお船の先のお守りだった、オカタかなっ？

光をあてに 呼吸をしたのが  
気づけば波間の 飾りとなりて

光をあてに みちびけど  
今やそれすら 波間のまぼろし

あなたは銀河の わたしは湖底の  
光を聴き かげをうたい  
へだたりつつ 音はみなもと

古代樹木語はとってもむつかしいゆえ、ワタシの語学力では洒落た訳にならないのですがっ  
水に響いて、なんだかしんぴかつ ものがなしい なによりココロがすう～っとするお歌です。

カオンくん、たびたび落ち着くのに聴きに來たいね ゲンマさんもつれて

...と話しかけたら、白こいぬがグッスリとなりで眠っておりました。  
お歌よかったからねえ～ アルッでもこの変身、治るかな？

ふしぎな歌のおねえさんは、長～い木の手をゆるゆるにっこり振りつつ、木ぎれに戻っていきま  
した。



ゲンマさんがまほでし下宿に来ていました。

なんでもふらわーあれんじめんと（ヒト？にも植物にも優しい）を感謝のしるしに作っていたら、うっかりコレクションしていた花粉や種の瓶をどぼっしゃーしてしまったらしく...

”お掃除と7割程の種・花粉類回収は為ったのですが、お鼻へのあれじーが来ちゃいましてっ大急ぎでまじかる甜茶の苗を育てておるところですに～

いやはやホント ワガハイとほほ ですじゃっ...”

ゲンマさん、植物関連いろんな技術あるんだねえ～  
ああでも、あれじーはきつついなっ

あと、変わったマスクがあるんですなあ（尻尾をゆる振るカオンくん）



3にんで、ダイモ師匠・ヒュドール先生に何をあげたらウレシイかな？会議を改めて。

- ・ どうせなら、魔族寿命的にもなが〜く使えるもの
- ・ 3にんのワザをミックスして作れるもの
- ・ なんかワタたちっぽいのもの
- ・ ココじわあ〜ん&しみじみ

あれはどうかな？ではこれは？するほどに、難易度がupupっ  
でも、ちえやせんもん？ワザも持ち寄って、いろいろ

ほおお〜っとなるもの、しっかりでけますやうにっ！



秘密の贈り物の案が、だんだん出てきました。

- ・ みんなですべしある お料理？
- ・ 湖底洞窟内に温泉づくり？
- ・ 記念樹や 記念ふらわーなど（まじかる長持ち）？
- ・ 身に着けるなにか？

う～ん、ドレもよさげながら、ビビッこれだーっ！が、ナイ...

まだもっと考えているものがあるにはあるのですが、まるっきり作り方がわかりません。

ひとつのものがでてお手もとにあるって、すごいことなんだなあ  
ワタシたちも、きらきらっと、魔法師匠どのずに 贈るぞっ

ということで、思いつつ、集中しつつ、今日は強め魔法を出したときに発動点から吹っ飛ばされないやうに特訓しております。

うっしかし最近少しでも食べ物を思い浮かべるだけで お腹がへるへるっ！



昔、めらんこりっく蛇巨人・ヒュドールさんは、人間くらいのサイズの時期があったさうです。

魔域のひとびとが自然発生し、基本ソロ生活をし、気に入ったものと親兄弟がわりになり、永い時のはてに別のものに変化していく そんななか

域のはずれの 光る花樹のしたで、再開

見ないうちに いっぽうは 水をあやつる若くあやしき蛇怪さん

見ないうちに いっぽうは ごうかを吐き空を飛び回る、ねっけつ巨獣さん

プランクトン状態どうしでばとるをしたのが、もうはるか古代のやうです。  
(じっさい とんでもなく長生きなのですがっ)

2人とも構えて また戦おうとしましたが、巢をかけていた親鳥さんに厳しくめっ されてしまったらしき

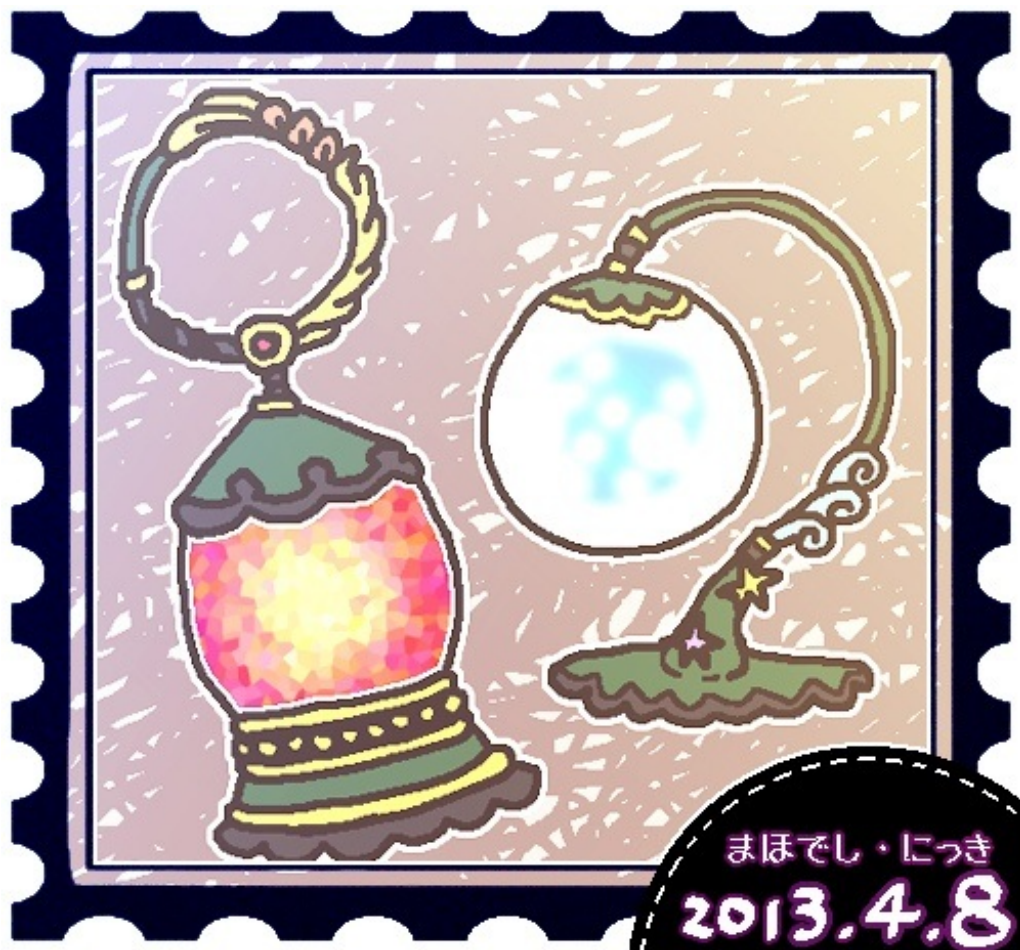
脱力や謝罪をしながら、すうひゃくねんぶりの お話

巨獣さんは、ひたすら世界中の”勇者さんご一行”とばとるするのが楽しみらしき  
(もさときけば情熱がふるいたつ、という血気盛んなファイター時期)

蛇怪さんは、そろそろ ずうっと住まう湖を探すとのこと  
素敵な石碑とみせかけて、中は広大で、幽邃で、感傷をいやす快眠につつまれる魔法の楼閣に

魔域のオカタガタの思い出話にでてきた、思い出のひかり

ナントカ、どうにか、秘密のぷれぜんとに 活かせないかなっ？



きょうは、こんなかんじの 2つのランプの夢をみて起き、すぐにメモしました。

そして、まほでし特訓／勉強お昼休憩中に、でしずひみつ会議でおひろめっ

”ランプですかっ！生活にも魔法にも繋がるし、思い出にも...  
ワザを持ちより今こそでありますに～”

”でも、まじかるらんぷって、どう出来ているのか？  
僕らでも、作れるかな？”

でしずめいつあと2人反応は、それぞれこんなかんじ。

そうだねえ、そうかもしれないねえ

でも何かお話を聞いたら、光がだいじな気するんだ して植物人さんと獣人さんのアイデアはっ  
？

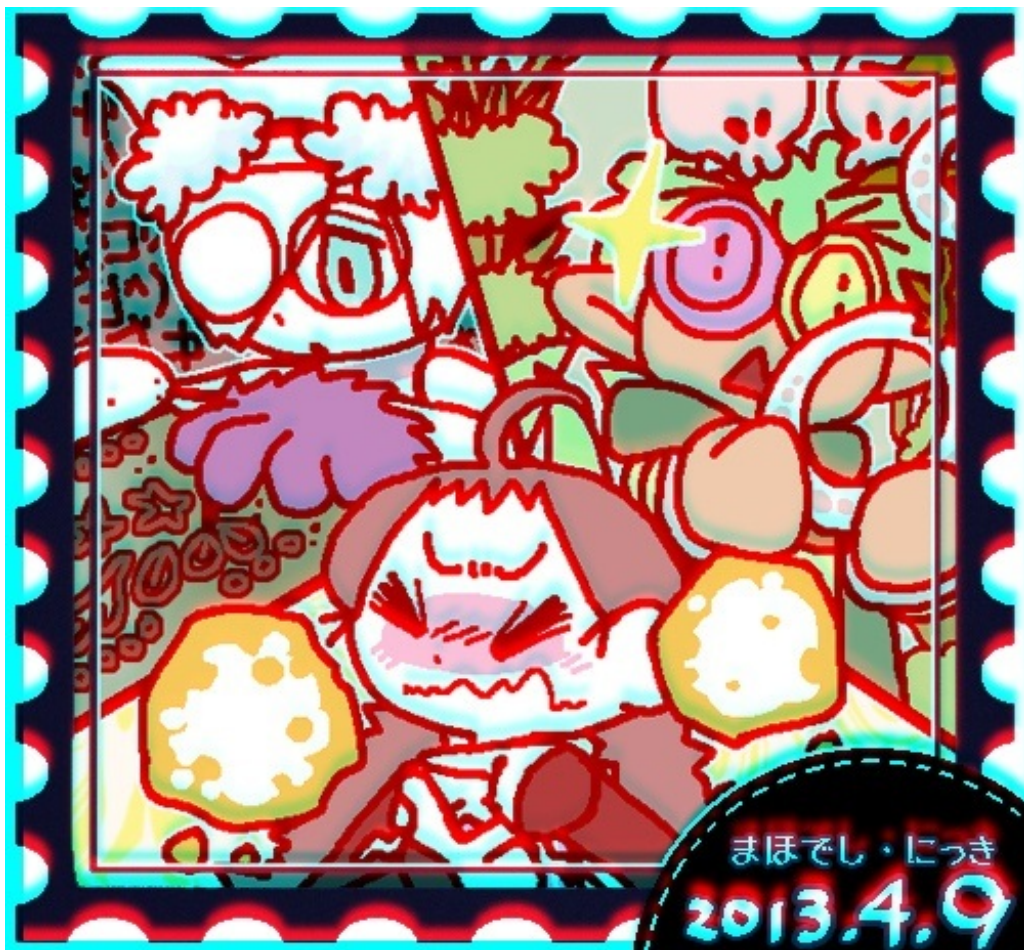
”開花するとしばらく、花火のやうな光を発しておるお花というのがありましてね  
それで身を飾るものなど作ったら、なんかかっちょいいですに～

...でもお二人とも、もう変わったモノを首元につけてラッシャルかな？”

”お二人とも、魔具を持っていないから、どうかなって...  
あ、でもそういうすたいるじゃあ ないのかな？”

大方、「ランプいいんでないかい」、となりました。  
これか！とはっけんしたら、発見周辺にあったナゾがころんころんとっ

ようし、ワザを磨いたり持ち寄ったりしてれつつめいきんぐ！



ふしぎで暖かな灯りをつくるために、各自あいま時間にぐわっとワザをみがいています。

・カオン君は、防音&保護に作業用めがね&耳あてをして、金属加工

獣人さんの爪は、ほんとうにお強いっ

(巣で爪とぎをしとるおかげだねっ...ということは、ねどこに使った岩もお強い?)

・ゲンマさんは、細かい飾り／持ち手部分にぴったんこの素材さがし  
あうやうでちがう・ちがうやうであう木肌や種、枝を、こつこつ試しているらしき

・ワツはといへば、光源をどうしたものかを思案&じっけん中です。

しばらく光っている星石さんを入れる？

普段は光らず、魔法をかけると光る素材？

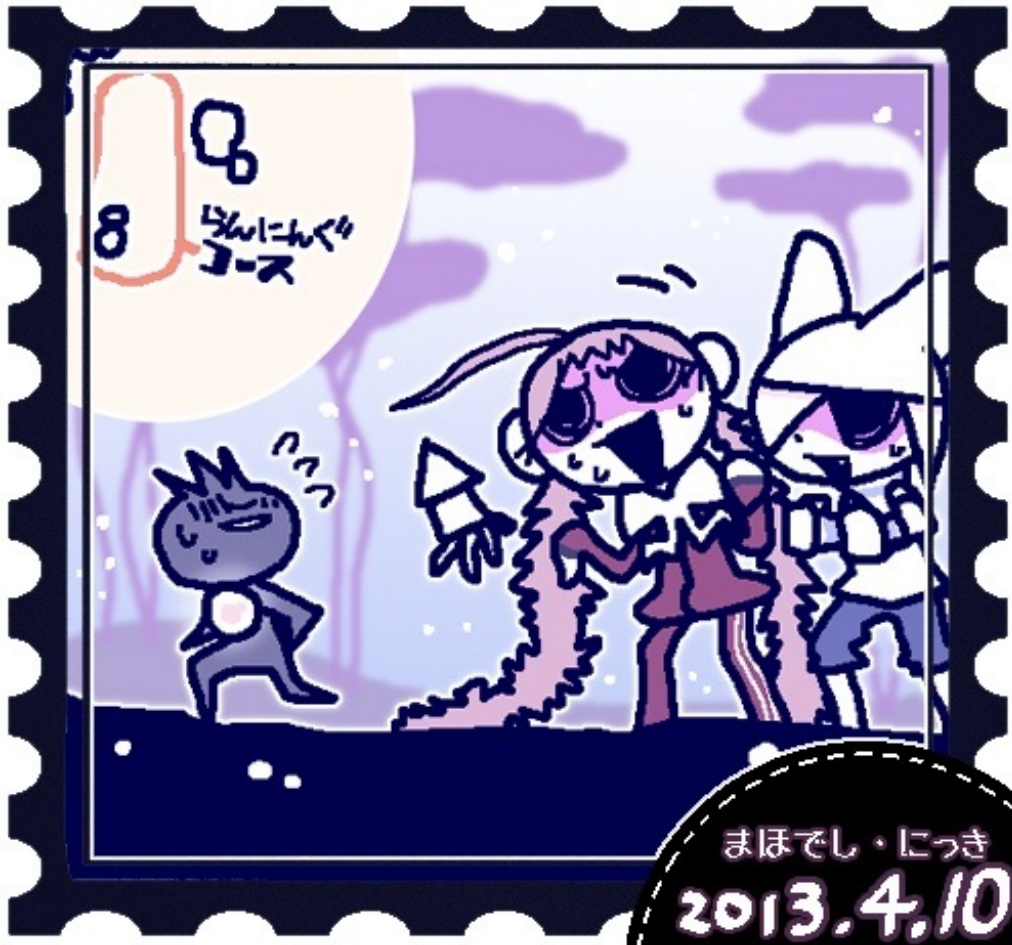
なにか光る生き物さん？



ふつうにお買いもとめ がいちばんしっかり出来てる&どちらもこんぱくつ一連  
ながら、コードを繋げなくても、灯したいときにともせるあかり を なにとぞ手作りでっ

魔域出身ごようたしのお師匠さんがた だからこそ、たまには な感謝のほっこりをっ！

空飛ぶ my魔法ハウスにも、ヘンでほわ〜んとでけるランプ、作って置きたいカ〜



ダイモだ。

最近、ルメもカオンも なんだかヘンな方向に情熱みなぎっている。  
じつに魔法に携わる者らしくてほほえましいが、段々ゾンビっぽくなってきたのは心配だ。

そのわりに、なんだか いきいき？しておるし...

魔法の特訓が終わると そそくさと下宿にこもりきりになってしまうし、  
たまに金属の削りかすや花びら、光る粒子がくっついていることもある。

でしずの生態 いよいよ謎めいてきたものだ。

まあ熱もはいつているのだし、とがめることもないかっ  
ヒュドールに互い それぞれの弟子達について聞いたら、

『まあ、ときが来るまで待つてやることだよ』

なんて呟いていたしなあ

なぜ、少しくいきしとったんだっ？

...というわけで俺はといえば、竹炭をつまみつつ火山の今後なぞを黙想することにしよう。



きょうもどたどた、魔法特訓&おくりもの作りでした。

”フィ～じゃあ、また明日”のあし位のところで、謎のひとやまを発見

「オヤツ」の石炭を（たぶん我らが師匠ダイモさんから）さずかりました。

おお～古代の樹木だ、それがごつごつじゅわ～な石みたいになって眠ってたんだねっ

そしてそれらが、まんまる目でカタマツとるワタたちの目の前に...

よし、師匠に後で素敵な使用法をうかがおう！

ちなみにヒュドールさんからの差し入れは、からんころんの氷飴でした。



この方法でいけるか、と思えば おもいもせぬヒョエーッしたり  
この方法ではだめか、と思うと 新しい1回ではスルッとだったり

ひみつのおくりもの作り、まさに365でいずの行進んぐです。よし1、2っ！

...なんてことをしつつの夜みる夢に、もう一方のカオン君ができました。

所々にビーズ飾りの光る なみうつ黒いフェルトの空の下の 真っ黒い草原  
秋のやうな、さらさらこおーとした風のなかに、ワッ達は立っていました。

(おや、いつものカオン君と 黒っぽいそっくりさんがいる)

声をかけたら、少し唸りつつ振り返りました。おお尻尾がざわっとしとるっ

あっと気づき、大丈夫だよ のやうな獣人さん語でなだめる白カオン君  
そうだ、ワッもキケンでないことをお知らせしやう 飴ぽけっと飴ぽけっと...

やっとの事でハイッと取り出したひとつを、ン？と確認  
あれ なんか表面がくるくる動いてるかな これ

そして黒カオンくんいわく

”それ かみ つつむ いいとおもう”

ブハーッと目覚め、そうだよねっ！とっ  
(いつもの飴はちゃんと包んでありますぞっ)

ダイモ師匠に聞いたら、数人でまほでし生活をしていると結構あるさうです。  
ホトウのコロのなかinでなく、わたしのコロの中の・カオンくんのコロのなかの のやうな？  
へ、へえ～そうなんだ～っ

白しっぽくんに確認したら、昨日もしゃもじゃ毛の宇宙怪獣が夢に出てきて怖かったです と...  
あんれまあ せつない現象だなあ

それはさておき、今日もまた 波の光きらめく湖底のあさごはんタイム！



”かまどに、薪をくべながらフーフーするの、大変だったなあ っかし”

というのを、でしず2人はあんまりわからないやうでした。

うちでも お勤めしていた お屋敷でも、ぶへっげほっつつ 吹いてたものです。

”じゃあ植物人が種ごとに 運ばれ民話 を持つのはご存知でっ？ちなみにワガハイはお水っ”

ふたたび、他でしずは きょとんとっ

大きく分けて、風・水・海流・動物・はぜる仕掛け の5由来民話らしきです。

海流さんがたは、なにやらアコガレの対象らしき。

”僕たち獣人は、うわわっというときほど鼓動が極端に遅くなって、じっと状況を見極めるよ”

こんどはでしず、なるほど～とっ

そういへば森で小鹿さんとであったり、とつぜん猫さんにであったりした時 ぴきっとしてたア

こんなかんじでひといきごとにお話しつつ、贈り物のまじかるランプ作りの日々が続きます。

少しだけ作業に、3人とも慣れてきたのかな？

とんてんかんてんしつつ、でし仲間のいつかのお話 もっといろいろ どんなかなっ





密林の遺跡でうまれた植物人、ゲンマさん

はじめてみたのは、おおいつくすやうに咲く花々の原色

そこで光を浴びてごはんを体内で作る方法や飲んでいいお水、きけんなお水などを 教わり

よっこら どっこらしながら、石のきゅうでんの外へ

そこは、はじめて吹かれる具合の風に満ちた、古代の道でした。

見渡す限りどこまでも、所々林にはいりながら つづいています。

背中の新芽は まっさおな大空を向き、横向きの帆のやうにさわさわ そよぎ、  
でも気持ちは何だか震えて、やけに眩しくて、旅の一步がナカナカ出ず...

ゆるりと座って、えんてんかのなか ゲンマさんは独創的な眼鏡を作りました。  
旅のどっしりとしたフンギリには、そのカタチこそ だったらしき

通り過ぎていく 水牛とじいちゃん  
どうしたね、豆っこ と、水りんごひとつ くれた

村がみえないので きつとずっと 遠くから また遠くへ

ぽわんぽわんと波紋をつくる半透明なかじつを 圧倒的な光と熱をはなつ陽に透かして  
また眩しさにギエツとなりつつ

たわわに実る水りんごの樹のこもれびを いまだ見ずながらおもいうかべ

やっと立ち上がって、蔓のサンダルで歩き出しました。

旅のいっぽをよしっ...と どきどき踏んだ、ある雨上がりのゲンマさんでした。



巣立ちの儀式の翌日 まだ日もでていない、暗いもやのなかの草原

早起きの小鳥の声と なにかの呼び声と 土と草と水のおいを かぎわけ みに一人  
これから巣穴を掘るまで、しばらくの徒歩旅です。

大きな木や石を見るたびにごあいさつをして、また歩き  
様々ないきもの・しにものごことを旅の中でだんだん覚え  
きょじん族の狩人さんがいたら ささっと身をかかし  
その日そのときの滋養となるものを その分ずつ食べ あるいはのがし  
川にもごあいさつして べろべろ飲んだり 浴びてさっぱりしたり

盗賊さんにだまされかけたり、うっかり入った獣人ぎらいの町で追われたり、  
知らないおひとのキャンプに招かれたり 馬車に乗せてもらったり

月の下で自分のココと問いあったり しつつ

奇妙な森にたどり着きました。

木の一本一本も、足跡も鳴き声も、においまで 未知だらけ  
常に光は弱く、みあげる先も足元も、うすぼんやり

でも、なんだか（この森、何だか居心地 いいかも...）と思ったさうです。

おもいたったがみにっこ獣人くん、渾身の掘りで壺を横にしたような巣穴完成っ  
そしてそのまま、へろへろと倒れこんで、ぐっすり こんこんと 三日三晩 夢の中

心配なのか、緑カタツムリの家族20ぴきが 気づけば寄り添っておったらしきっ

やっと、これから

やっと、ここから

はじめての巣穴の地を旅の先に見出した、いつかのカオンくんでした。



山の中の、魔法使いの里の また山奥の、ワタのじっか

こまごまをそれまでに終わらせて、オレンジ色のじんわり暖かさと  
時折すーと吹く 冷えた風のなか

おばあちゃんに ぽんぽん冷えるからおうち入りなさい、といわれながら

ワタはヘンなうたを作りつつ口ずさみつつ、テラスで待っていました。  
住み人手作りで、だんだんあちこち直しながらきた、木のハウスの

そわそわと、おもかげと、しんぱいごころとで お顔をぷわぁっとさせつつ

お買い物に、おしごとに、ぼうけん旅に りょこうに、と村を朝早く飛んでいったひとびとは

にどと帰らないひともいるけれど、

帰るひとびとは皆、夕陽やお月さんの光を浴びつつ だんだん合流して飛んで帰ってきます。

長いホウキ飛行ゆえ かた手を軽くふるって痺れをとったりなど しながら

空に黒い点の群れが見え出して、それが魔法使いのひとかげにかわると、夜目のよく効く番がらすのすー太くんがイチ早く呼び声をはっします。

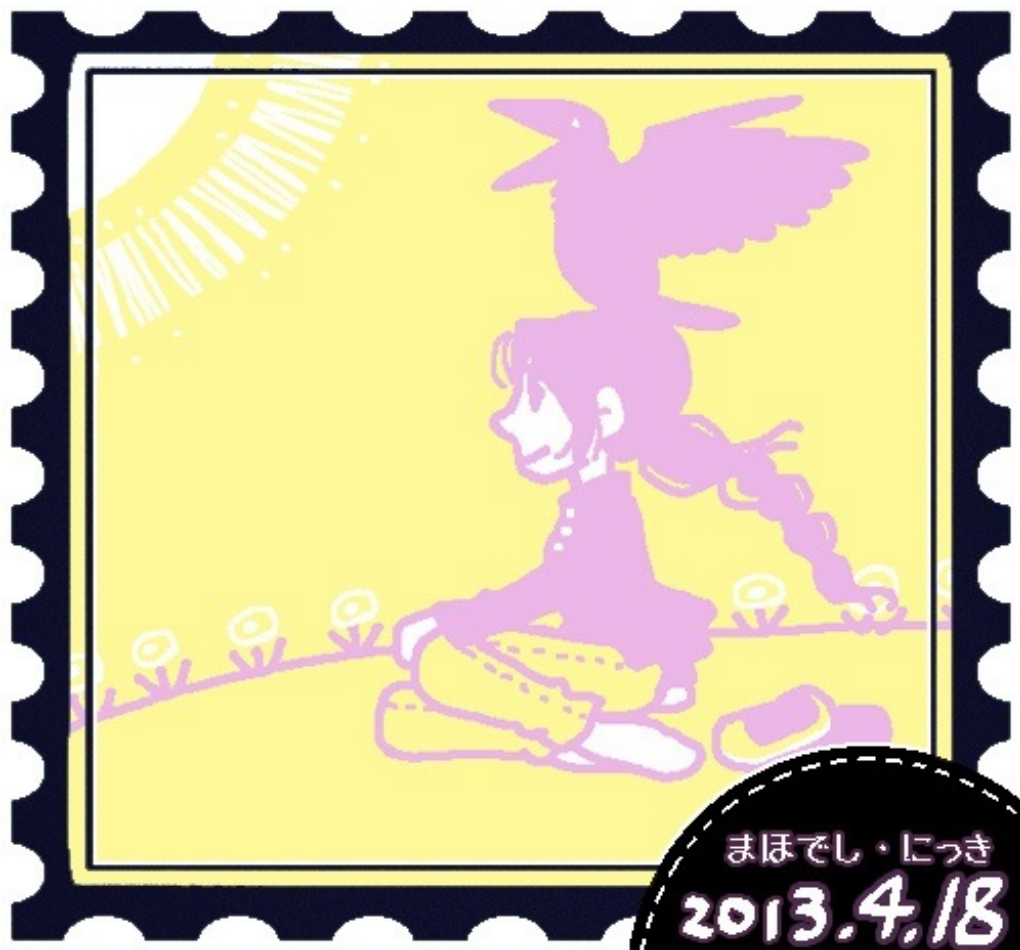
すると、おかえり魔法使いさんがたのパートナーからすさんたちも いっせいに応えます。

ワッも みにっちい両手をぶんぶん振り、足はちょこまかじゃんぷしゅつからすさん鳴きっおばあちゃんにも知らせに行きます。

おやおや、気づけば青い闇のきた里に ぽつぽつ おれんじの灯り  
かけてもらった手編みの肩掛けを みなみの島風に巻き直し、ごはんをよそるお手伝い

こぼさないやうに、そ〜っとそ〜っと...

精一杯の健康スープのぬくもりと大好きなおいにおいに全力のすきっぱらが鳴る、いつかのワッでした。  
。



部屋の水中花を見ていたら、ちょこっとかあさんを思い出しました。

山の野原で、とうさんとおじいちゃんはアコルデオンやギターをでたらめに・楽しげに演奏させ、にいさんは草に寝転んだまま虫眼鏡をふうっと吹いてしゃぼんのやうなクジラを空にうかべ、おばあちゃんは草花の名前をあてっこしつつ薬草つみ

ワタは 石を並べながら色んなカタチをつくり、いいのができるたびにかあさん達にでんたつ

かあさんは そのすー太くんを頭にとまらせて座ったまま ねむたげ

”魔法使って、やっぱりちょっとヘンかもねっ？”  
ときいたら、

”そうだね、でも ルメもかあさんも、ちょっとヘンかもしれないね

みんな じつは、どこかそうかもしれないね”

かあさんがちょっとちゅーんの転げた古い魔法語の歌をうたうと

風ででけた動物頭の人々が手拍子をして一緒にうたう姿が、もやのやうに浮かんで消えました。

とうさんもおじいちゃんもおばあちゃんもにいさんも、かあさんに拍手っ

”ちょっとヘンだと、素敵なことがある日がきたりするよ

ルメがわからなくなたって みんながわからなくなかって それぞれにね”

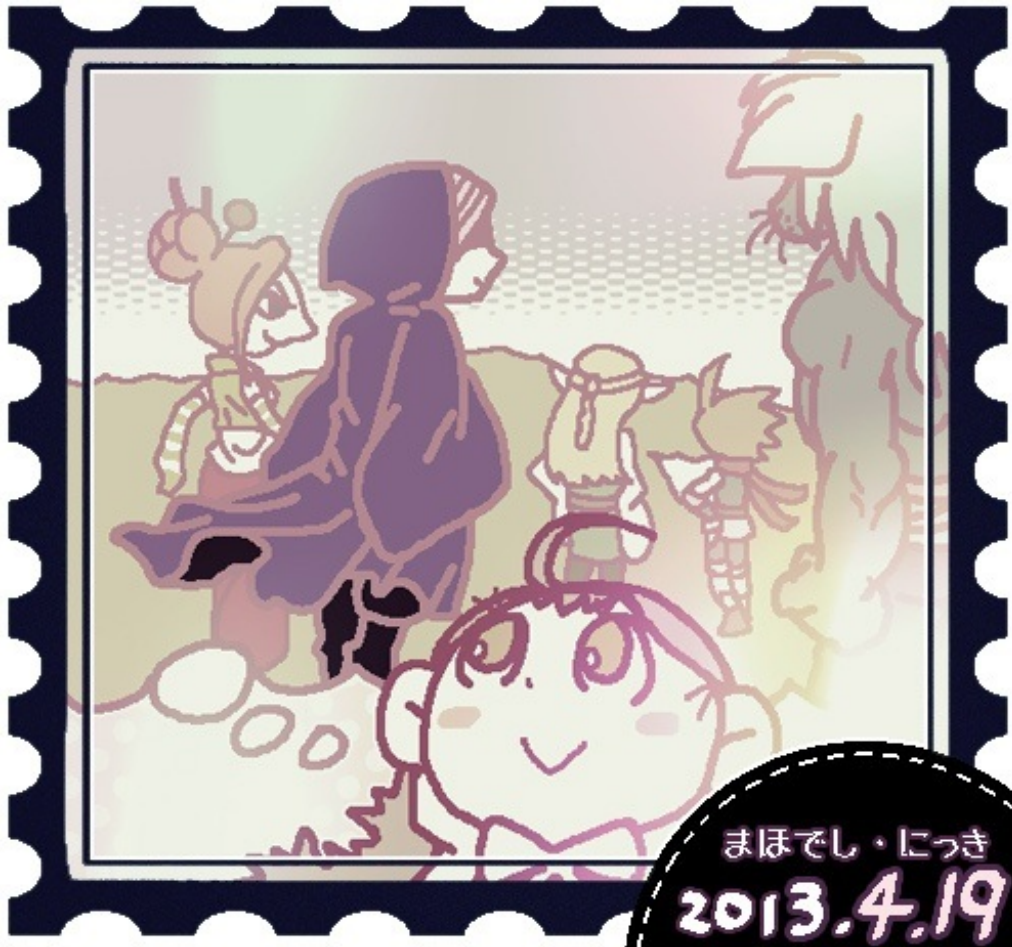
なんだかそれも魔法のやうなかあさんのことばで、ワッはひそかにほうっとしました。

そして、旅してじぶんで見つけたお師匠さんに教わって魔法を使ったおしごつ ぜったいするんだ！とっ

かあさん、みたいに&ワッすたいるでっ

そんなこんなで、けさは塩高菜おむすびにしますぞっ





師匠ずにおくる魔法のあかり作りでいず、続いております。

その中で今度は、魔王さんを倒しに行った5人くらいの勇者さんめいつを、思い出しました。

勇気溢れる剣士さんと、知恵ある弓の人と、舞いの得意な花仙さんと、無口で怪力の獣人さん

そして、魔法使いの里（ワタのふるさと）出身という、伝説の魔法使いさん

「旅をして、魔王さんを去らせたので、惑星海の泡の星星は飲み込まれなくてすみました」

それがモトですが、細かい設定は後の時代にどんどん加わり、ドレがホトリかちょっと不明なので里のものは、みにっこい頃から、様々に空想した”伝説のひと”イメージを持っています。

プロフェッショナル風なびく白髭の、おじいさん？

憂いの表情をうかべる、絶世の美ねえさん？

風変わりだけど義理堅い、ちょいマッドにいさん？

中世ながらの、某ねるねるお菓子 な、おばあさん？

こうだよ、違うってこうだって でも魔術師列伝の記述にあるじゃん、とか討論っこ いたなあ

ちなみにワタシのころのなかの伝説魔法使いさんは、丸めがね・噴水型ねぐせ・ぶかぶか黒紫ローブの不思議くんです。（最近しっぽ設定が追加されました）

お宿探しとか、ちょっとトイレ！とか、あまり知られていない地で名乗ったときの説明とか、ごはんとか、旅の要りモノとか、ホームシック、魔王さん直前のだ緊張とか苦悩とか、仲間意見のくいちがい？とか...どんなだったかな？

どうやって、乗り越えたのだからっ

ああ、そんな点から空想してたら、ココのなかでどどんかれらがほげげん旅にっ！



珍しく、寝坊をしてしまいました。

朝の魔法特訓小てすていんぐ には間に合う時間なのですが、朝の一連がフルぷっしゅっ  
うひい〜しつつ、実は履いている靴を...くっ、うああよく履けん！

そこに、足音もないままにカオンくんがやってきました。

”ルメさんおはよう～  
...ええっと、くつが左右ぎゃくかなあ”

えっ

あれま、ピッタリ！

(しかしあとで磨かなくてはっ)

下宿の外では、その場まらそんをしつつ師匠・ダイモさんがごあいさつ。

”ようルメ&カオン、しっかり課題はクリアしてきたかーっ？”

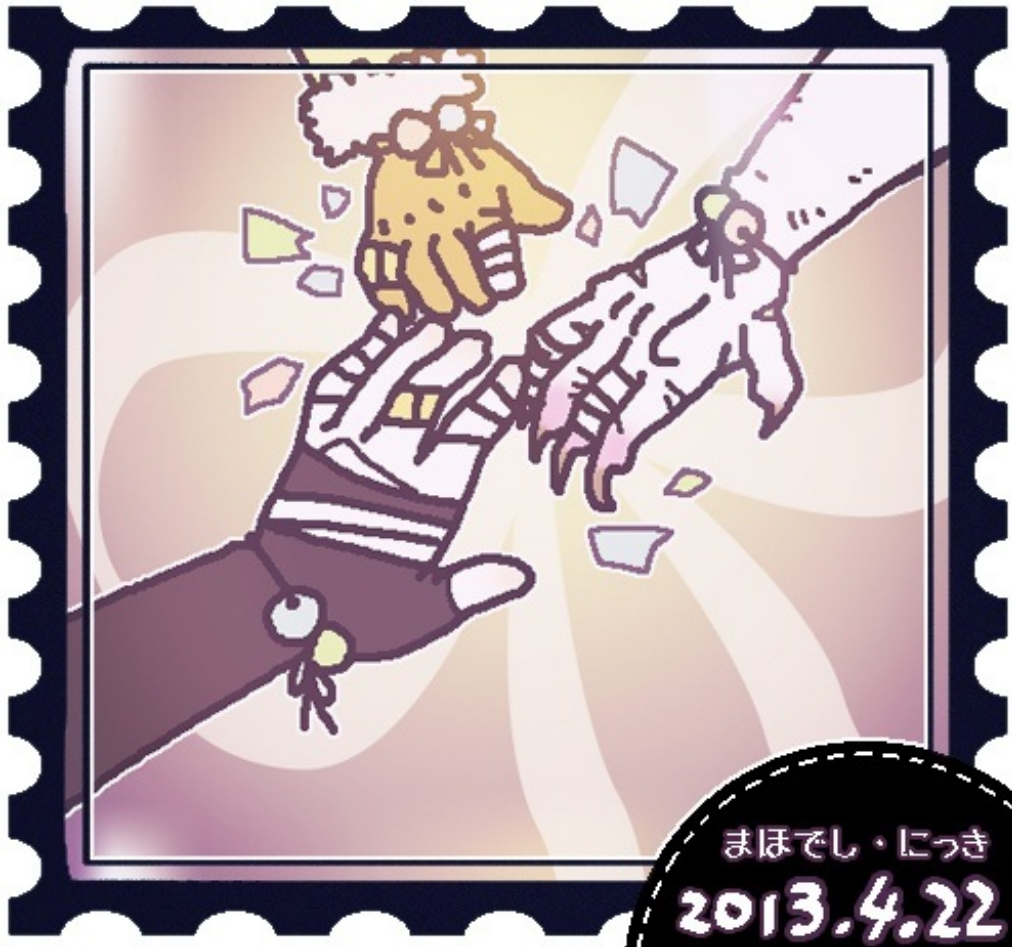
あわてないでいいよ と、もうすこしで贈り物出来上がるね と

穏やかでどこか切なげな空色の目とあい・こんたくと

そうですだ、師匠へのプレゼント、どんどんカタチになっていきます。

しっかり作り上げてお渡しするぞっ

それでは地図を手乗り立体化する魔法小てすていんぐ、ふんばってきますっ！



ワタチまほでしず、ダイモ師匠／ヒュドール先生に素敵たまじかるランプを贈るために、あれかなっこれはどうかなっ しております。

迷走のはてに 型がどばーんしたり、  
気持ちゲージがシュパーンしきれず ガラスがずいーんしたり、  
おいしいところで光素材が アチャーしたり、

でも、ランプづくりの軸はなんとなく掴んだやうな気がします。

たまごから 鳥の雛さんが できるぞ!のときのやうな あんばいで...

お屋敷お手伝いさん時代は時代で、ファイトしておりました。

ときには おやさしさもあり、ときには どうすればいいんだろう もあり  
どうしても上手くまると方向へ行く答えがわからなくて、カタマッてしまうことも

めいど長さんやめいつにわかってもらえず／わかってもらおうと思わず なんとかソロだっしゅ  
の日々の、さまざまなこと&奇跡的にわかってもらえたことも

だからゲフンとなったり、だからホロリンとなったり そうしてできてった いろいろ

(何やら素敵なかたちにしたいものだなあ)

あのときもそうだし、気合入れにばんそうこうだらけをそりゃっとかざす手ずつだって！

さあさあ、ひといきにはちみつ&レモンonすかっしゅだーっ！



まほでし下宿をたてるときに、調理場兼工房のやうな地下空間をつくっておきました。

きょうはここで、つめのお話

テーマは、『どうやって贈り物を師匠がたにお渡しするか？』

- ・地中から飛び出してプレゼント
- ・長いぶらんこから空中回転ジャンプを決め、即座に差し出す
- ・置手紙くいを解いてもらいつつ終着点にぶれずにと
- ・さんたおじさん形式
- ・まとりよしか形式
- ・さなぎ形式

いろいろ出ましたが、果てに”水中スターマインの魔法を用いて、びっくらやってきたお師匠ずにお渡し→その後湖底ぴくにつくごはん会”ということになりました。

あとは、包み方とスターマイン魔法の練習だっ

そのまえに、胡桃たっぷりのほかほかパンを 香ばしいほうじ茶といっしょにいただきます。

ハワそうそう、秘密の贈り物のランプ、なかなかいいのができましたっ！





魔法特訓の休憩中、水中えんかがモクモクしていた。

七色に変わっていく光の粒子で出来たけむり...まほでし下宿に近づく度に大きさを増す。  
多分 わが弟子2ひきがまた 何ぞやらかしたんだらうなあ

なんかkeep out! の黄と黒の綱 はってたし

う〜ん 今日はしっかり確認をしておこう。

2人とも どこかソワソワして何かを隠しているやうだったし  
ハイレベルすぎる魔法をズドンされても、俺達はもちろんヒュドールの衣食住も難儀になるしな

もちろん、親御さんも心配するだらうし

って ああ どんどん 実は壮大・深淵・あやしげ の魔法のヴェールが飛んでいっちゃうよ...

よし、じゃあ溶岩性小石をバリバリつまみつつ、確認してくるとするかっ



打ち上げた水中スターマイン（のはずがれいんぼーきらきら煙）が思いのほか広がりすぎてげっほげっほしておったら、ゴゴゴゴ...という効果音が聞こえてきました。

おやっ なんだろなっ？

と思うまでもなく、われらがダイモ師匠でした。

うはあっあしもとに市街のジオラマを置きたいあんばいの迫力だっ

”どうも何かを作っとるらしいが、そろそろ明かさねえか

ヒュドールは待ってやれといったが、俺ア隠し事ってえのはどうもな...”

魔域眼力すさまじきこと 烈火烈風のごとし！

うう～ん、さきんじてアピャーしてしまったけど、お渡しは今かなっ？

確かに師匠には理由をいわずに長めに心配させてしまったし

そのわりに、うまくなぞなぞ潜伏できんかったし

でしず3にんであいこんたくとし、  
”ヒュドールさんも呼んできますから、待って下さい  
そうしたら、とあるモノをお渡しします とっ”

(数分後にゲンマさんが戻りましたが、「先生は読まれた本に感激しすぎてぶるーになり、部屋  
ごとめらんこりっく凍結なさっているのです、お渡しは明日 というコトでっテッ」て...

うはあっ師匠 頭からボルケニック・ボムぬおおおっせんでっ！)



湖底の広場に ヒュドール先生も、ダイモさんも、ワツたちも揃いました。

そして、先生・師匠いつもありがとうございます！記念のプレゼントをお渡ししました！

(じっじつは、おもいきりの力作なれど 出来上がりがすんごく ちっちゃくっ...)

まじかるランプは、お二人の手の中でほこほこと 生き物のやうに灯っています。  
光源は、砂地にころころと無数にあった石たちのひとつです。

軽く魔法を込めて触れると、オルゴールのやうな音がしゅつ、さまざまに光るのです。

そんな石は見たことなかったので3人ともわっほいし、コレにしよう！とっ

ワツはおもに光源係。石を魔法で真ん丸型にしていくにしたがって、透明度が増しました。

装飾系のゲンマさんも、パーツ削りだし係のカオンくんも、共にファイツの日々でした。

ヒュドール先生は やぁ これはどうも有難う とっ

ダイモ師匠は3つのツノ？をしゃわしゃわさせつつ、ものすごい衝撃をうけております。

そして、カサカサーッと はうすへ...

あれっ やっぱり、ランプちっちゃ過ぎちゃったかな

”きっと照れているんだな 贈り物など、魔族は滅多に貰わないから

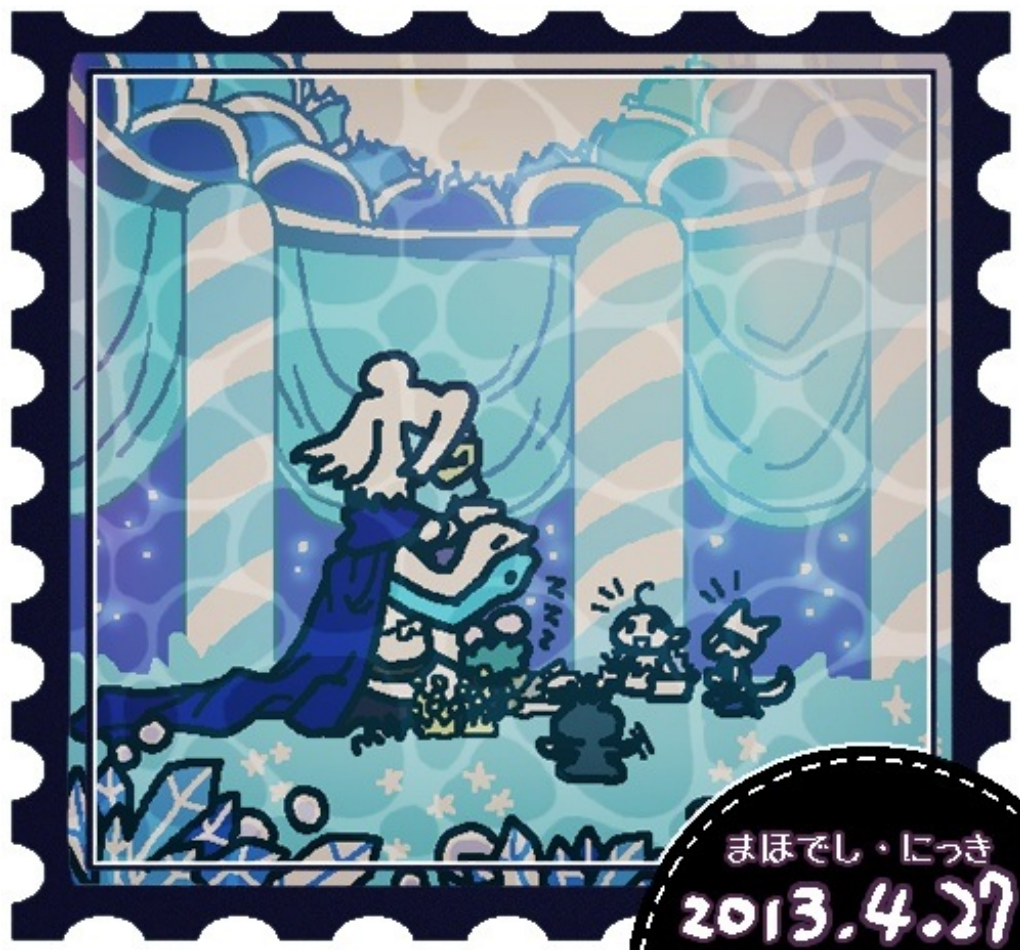
さぁ空腹だろう、皆で我が屋敷の昼食へ来ないか”

あ、なんだ

しゃわしゃわはヨロコビの印だったのかっ！

右手、右前足、右手用根っこをかかげて、はいたっち

しかしそのまま、力がぬけたワカたちは しおしおと倒れこんでしまいました。



めらんこりっく蛇巨人・ヒュドールさんのお屋敷は、湖底洞窟の広場の石碑のなかです。

中は平べったさも全然なく、水の音のみが響くほの暗い楼閣が広がっています。

何千もあるお部屋は、主に使う所以外は、かつてに融合したり分かれたりしておるらしき  
&壁の花鳥画は生きて動くし、欄干や柱の青や緑も、硝子玉の飾りも夢のやうだカ〜

この楼閣のやうなカスタマイズ飛行はうす、是非に作りたっ！

そんななかの一室・アステリと名のつく床が野原のお部屋で、ごはんたいむっ

滋養すーぷや、サラダや、水にちなむ食材の超絶技巧お料理を有難くいただきつつ、  
(うあぁっうる覚えでフォークもナイフもコンランっ)

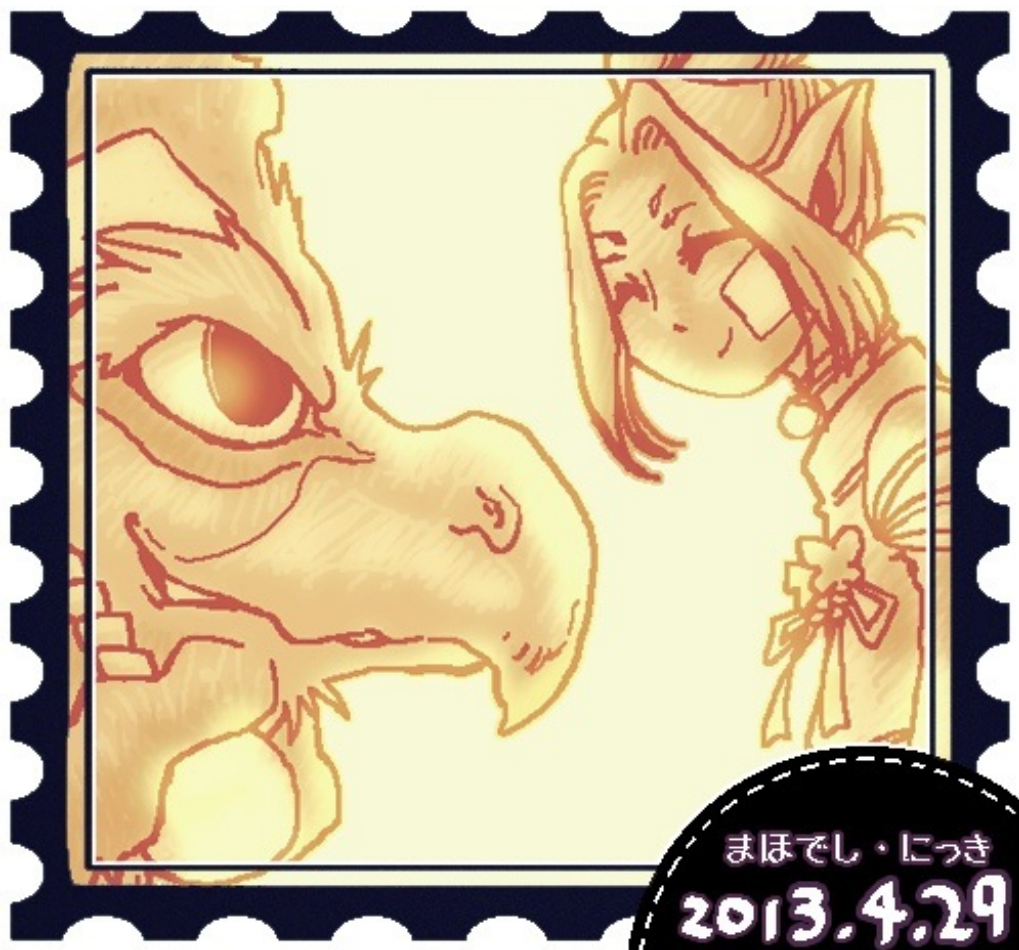
そのあとお菓子やおいしいお茶もいただきつつ、まほでし・お師匠ずの魔法談義in！

魔法のころえ、種類や歴史はだんだんとでも魔法の限定的虚実性と集団心理、魔法と科学技術の認識、魔法技術者のはくがいと意識の無属性における捉え方となっちゃうと...

(ん～、魔法たしかにすんごくじぶんのココでぐわーっと集中&つたえつつ編み出すところがでっかいからなあ習い始めはホントに解らんところが解らんかったし...)

なんていいつつ、ちらちらと輝く壁画の星空のした、でしずは次々と満腹の睡眠にはいってゆくのでした。





贈ったランプをみて、魔法師匠ダイモさんは昔をちょろっと思い出したらしき。

なんでも、ヒュドールさんと再会したときに、同じやうに贈りあったさうです。

風で青灰色の雲の吹き散らかされてゆく、黒い空の下の、ぼうっとともる夜光花の木の下

偶然 旅で一休みをしたのが 栄養だま付きの稚魚のやうな姿から成長した若者のおふたりでした

。

ずいぶんかわったなあ と、かわらぬ調子でびっくらしあい、

これからまだ何百年ぶん もっと変化しても互いにわかるやうにと、お土産をこうかんこっ

ダイモさんからヒュドールさんへは、溶岩洞窟で助けた 冗談好きの目玉石

(眼鏡の代わりに)

ヒュドールさんからダイモさんへは、竜宮土産の うたうやうに語る記憶球晶

(物わすれ対策に)

お土産でもぶちばとるしつつ、中々つぼだなと笑いつつ、おト最近これ必要...とト赫しつつ、おふたりともしっかりと新たな・世界でひとつのお守りを首元に結びつつ、

じゃあ、またなっと 手を振りました。

そのあといろいろあって、

ヒュドールさんは湖底にひみつの楼閣をつくり、ダイモ師匠はとんちでびんづめになりっ

んでもて、

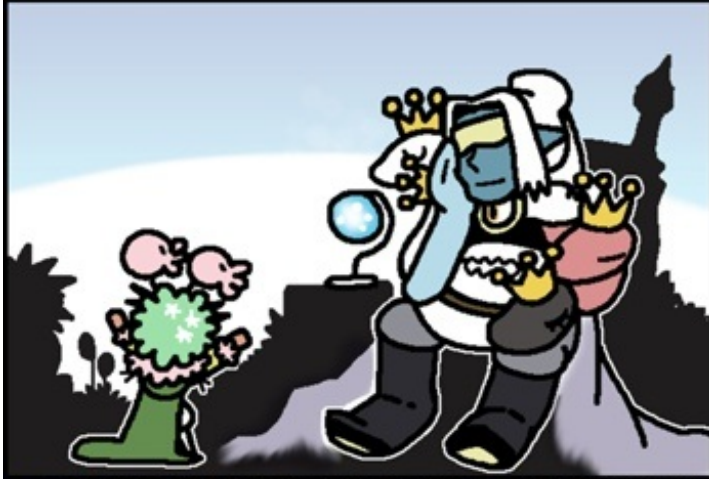
ワタたちまほでしずともであい、まほでし下宿が出来、まじかるらんぷを贈って...

ぬあっ なんか、すんごいナア～

「そうこうしていたら、素敵なカスタマイズ自在の飛行魔法使いはうすことができました」  
ってなれるやうに、魔法特訓 ふんばります！

まほでしーにっき  
4月のまとめ

言葉  
コネ







風ばかりが鳴る 底冷えのする曇天の日

荒れ野の 大樹のしたのあばら屋から、人が出てきた  
はずれたドアを 苦笑して立てかけながら

その人は木で出来ていて 息や言葉は弦の音

一息つくたび ひとりごちるたび ぎいぎいと鳴り 黒くいびつな音符が放たれる

荒れ野が遠く見渡せるあばら家の裏に 小さなお墓  
大好きだった素敵なねじや ばねや 釘のはなたばを置いた

一瞬 あのひとのわらうやうな 音

木の人も微笑みかえした、月の形の帽子と松葉のコートが飛ばされぬやう押さえながら

挨拶のやうな一節を鳴らし、日課の道のりをたどりだす

つやと溝のある 黒い荒れ野の上

降りてきた古馴染みの 巨大な銀の爪が なぞるたび 削るたび

地面と同じ色の粒子のやうな いきものや乾いた花達が

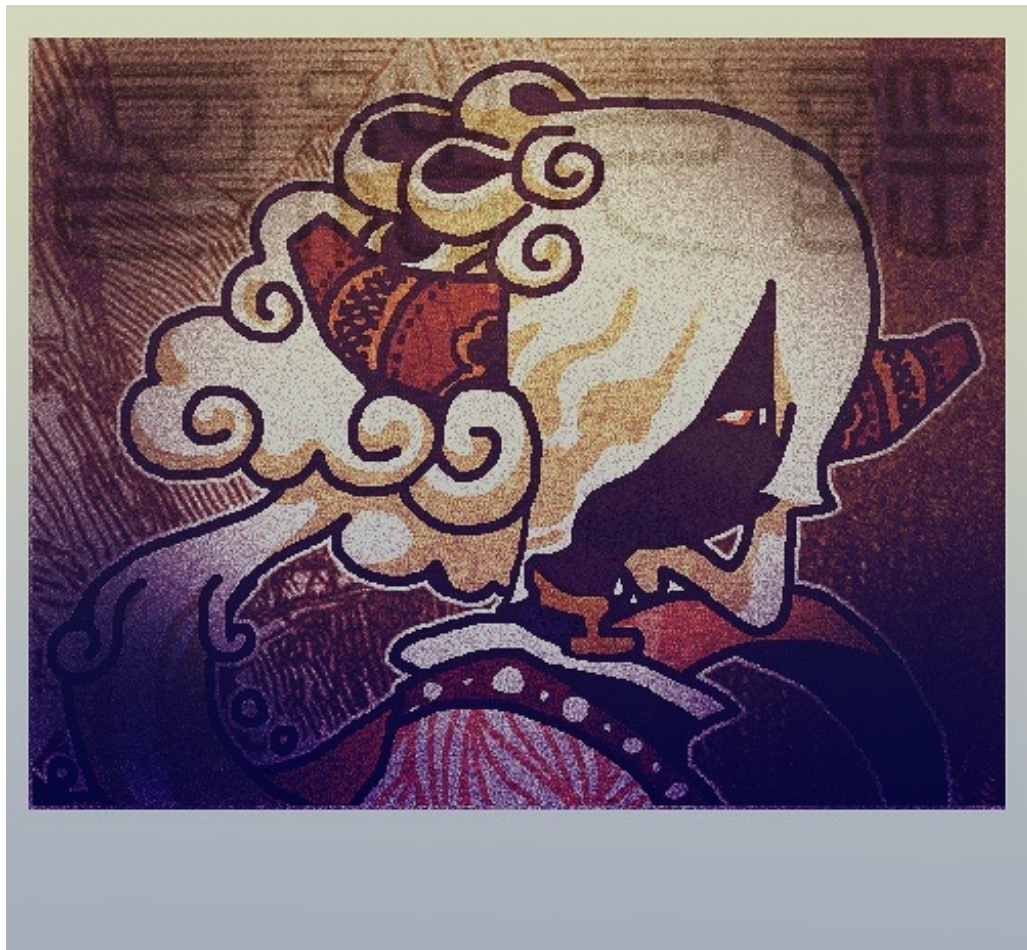
色を持って イメージをもって 理想の姿をもって

同時になにかを読む あわせて歌い踊る しみじみ聞き入る その中の思い出たちと

ひと時の再会をなつかしみ 素敵ないつも大好きな味と香りを乾杯する

ツェリノディシチ その人

音楽の粒子よりなる地平にすまう 耽溺の楽器



ある文人さんとなかよくなり、まがりしてくらすことになったひと

人の喧騒や詮索より静けさをこのみ、うてばひびく知識を持ちながら ひけらかさず  
何より互いに読みこんだ巻物について語り合うをたのしんだ

庭は小鳥のすむ林 流れる小川にかかる彫刻された橋をわたった 色硝子のはまった窓

石の長椅子に座しながら 花咲く話はやまやまを おおうみを 街からそらのかなたを飛び行く

ひとのよく話のすきな文人さんのもとに、なかまたちが集い始める

彼らからみをかくす ふしぎなゆうじん  
約束はしたが かなわなかった

つどうものたちには それぞれ まったくべつのかおに見えるという  
ものをあまりくわぬのも かの者がひとでないからだ と

こり もうじゃ き ではないか と

ある日ゆうじんは あさぎりのなか

私はたましいをとりたかったのではないよ ただ  
こういうものであることを かくしていたのは わびる

甕を手刀で割る

風雨をともなう突風

さようなら

小鳥のすむ 庵と橋のある水の庭に残ったは  
花の木の春香と

半分に切れてもなみなみと水をためたままの甕と

潤むように輝く、一枚の鱗

金泉童子 幽邃 そのひと

空の放浪と詩歌をこのむ 思慮深い白竜仙





熱い陽光がじりじりと照りつける大河が輝く　それがみえる村の　葉の屋根の家

数家族が昼寝のさなか　一人の子が、きいている

おばあさんのする　昔話

ここには昔　わにがいたよ  
星を嘔いては　笑っていたさ

山の王子と海の王子が  
あらそったことも　あったねえ

象や亀や水牛が  
支えるおしろも　昔みた

わたしのかわいい青猫は

みなそこのお花と 同じ名前で

おまえさんの おなまえは  
世界の果ての楽園の ほうぎょくの鳥と同じなの

知られ 知られぬ どこかのお話  
とうとうとゆく河の先に  
おまえさんも あたらしく きっとその目で見出すだろう

カーナバーティア そのひと  
歩んできた幾千の物語を紡ぎ出す 穏やかな 語り部



昨日まで快調に動いていた自作飛行機の計器が　くるっている  
おや、見れば　電波時計も・卵ラジオも・高度計も

さてはと思い　床の扉を開けて出る  
きらっとした快晴に浮かぶ我が家 浮島　その物陰で

羽をもたず　大ねじをくわえてにいと笑う　ちいさないきもの

せっかく苦心した島　いかにもさせまいと  
あっちへとんだり　こっちへ跳ねたり

パン焼き機とコーヒーマーカーが鳴るまでかけずり回り

気づけば　島から漏れていた原動力の液体素材　ぴたりと止まって具合が良い  
いきものは、誇らしげにキバだらけの口をにいと

朝飯を共に始めるころには　計器もおちつき

しかしてお前さんが得意げにパンに敷いてくれたチーズと飴玉は、私のお気に入り...

飛行機に乗りたい？いいがわるさは控えておくれよ

気象情報を確認せんと テレビを点けにいってみれば、大事なねじが抜けている

一通りをたいらげ、一人と1匹(?)で、口から飛んでいったねじさがし

"ハーベイ"、そのこ

空をゆくひとにしかすがたの見えない、もしやもしや毛並みの困ったさん



乗っていてころげた おおだまを追い どしんと大きな尻もちひとつ

王が笑えば 臣下も笑う

そうかと思えば 笑う王の 立派な髭を 時計の針に見立てて かつちこっち  
手早く結んで、あらら リボンだ

王が怒りをまるきり忘れ のけぞって腹を抱えれば 臣下もねそべり足をばたばた

こらえられず皆 ひざを威勢よくたたいて くるしいほどの笑顔と笑い声 お城じゅうに  
薔薇で飾られた露台にとまるハトさんすら ふくくと噴出す

逆立ちしたり おしりをふったり 調子っぱずれの歌をうたったり 箱でお手玉をしたり

おかしい調子で笛を吹きひょうきんに歩く風船のやうな者のあとを みんな みんな ついてゆく

楽しげな仮面の下で ぎらりと光る涙 ひとすじ

どこまでも どこまでも続く 国の外れの草原の道

みんな みんな 去ってゆく

うかれてわいわい たのしげに

なにが どれが 仕合わせか  
かれらがどこへ 行ったのか

ついぞ のこらず 一粒の

涙の粒が 化石にかかやく

マギエスタ・イーアム そのひと

ひとびとに決して醒めぬ笑いとちかった 喪失の道化師



からすをこのむ ひとがいた  
りゆうはひとが きらうから

陽でよくみれば 黒はにじいろ  
まん丸な目 射抜くやうな

枯れたやうでも威勢のいい声  
ころがすやうな 甘える声も

工夫であそび 音まね上手  
やんちゃかつ あいておもいのなかまおもい

一羽のこがらす 世話をした  
話を聞くに そのこはオサの子

たいめんした折に 望みをきかれ

からすになりたいと ひとほこたえた

ひげをなでつつ まんまるなめで  
うなづきつつ 首をかしげる 金飾りのおおがらす

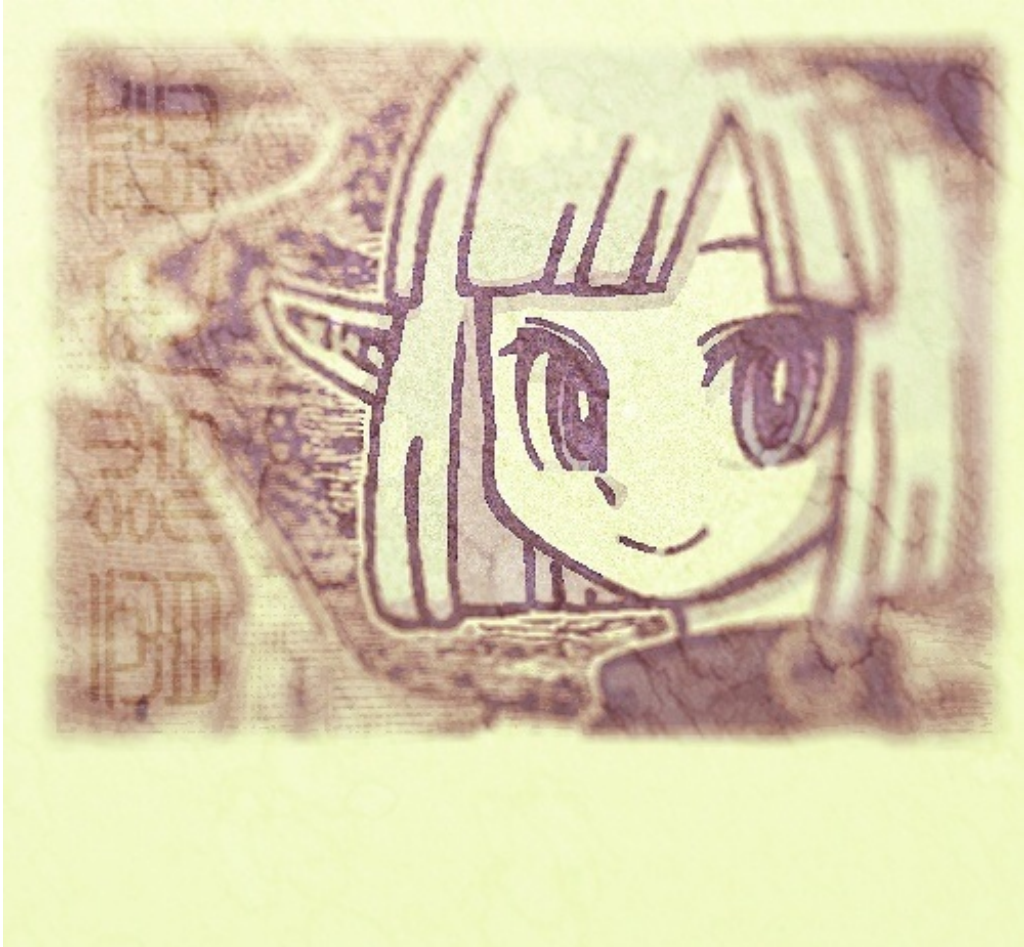
かくして わたしは からすになった  
そんなことばが 済まぬうち

ひとは 何十羽かに すがたを变じ  
あとは夕間暮れの そらのなか

あのこえ こえは  
いかやうな こころか  
急く足でききつつ  
やむなしに 峠越え

慈鳥丸 そのひと  
ほんとうは楽しいもの好きな 変幻に舞い遊ぶ あまのじゃく





惑星がまるくそれぞれの太陽をめぐりつつ らせんに動きながらだす音を思い  
奏楽をひらめいた人が あるのなら

あの星は なんと鳴るだろう

まっしろい 不変のこいぬ?と

まっくろい 長身の鳥と

あやふや動作の 人形と

おかしな取り合わせで ずいぶん長く 歩き 食べ 眠り 話した みちゆき

誤作動ではあったけれど ころろがうまれ 育っていった

突然変異から ふいに進化の樹の新たな枝が のびるように

木製の体は いまは惑星海の 泡の星

泡のなかには 森が見える

ついに自由のままならなかった からくりたち 部品たち かけらたち  
流れるうちにココにとまり 星へ降って 姿を変える

なりたかった花 なりたかった草 なりたかった木々 鳥 そこここに  
そうしてできてゆく森をみて 星のココは きらめきほほえむ

魔法人形だった小遊星ラタルニア そのいぶき

いくせんもの旅を見守り、いずれくる変化の向こうへ おもかげもいまもうたいつつ また旅へ



魔法をかけて 眠らぬからだになった 城下町

平和になったが 魔法がとけない

民が眠ると 町はたいくつ

楽しい店を たくさん生やして  
はじまりの野を夜景と共に散歩する

それでも民は 生き物ゆえの  
夢のきるとに おおわれる

町はむむむと考えて 闘技場を芽吹かせた  
名うての怪物と戦士を呼び寄せ  
かれらを 戦士同士を 戦わす

全員とはゆかずとも ひと試合ごとに 歓声はやまず

そんな”戦士”に仕立てられた 旅楽団  
勝ち褒美の豪華料理で すきっ腹を満たさんと

一方 鉄の山のやうに立ちはだかるは こちらも腹を減らしたカイメラス

ひとつの巨体から黒獅子・金山羊・赤蛇の眼が 爛々と見据える

繰り広げられてきた戦いと そのはてを知る町と観客  
ある者は早くも目をおおい またある者は緊張でかたまり

しかし 放たれたのは 壮大華麗な音の花園  
弦の奏者は臆せず舞うやうに 太鼓もらっぱも軽やかに  
力強い歌声はせせらぎからなる大河のやうに 闘技場をつつみこむ

歌の魔法は 眠りの魔法

欲する者に 欲するだけの眠りをもたらす そのために  
民はつぎつぎ 羽のやうに夢のきるとに おおわれる

とうぶん醒めぬ町を背に

自由になった歌好きの怪物たちは どこへなと飛び去り

自由な旅楽団もまた そのゆくえ知る者はもうない

ヴォームヴォース そのまち

今も民を乗せたまま 夢遊のはざまをゆるゆるとたゆたう



原初の、天地のまだない闇を飛び交う それぞれ 彩色

記憶より来る緑 空想より来る青 感情より来る赤 黄・紫などもまじえて

ゆるやかに、または激しく飛び たがいに激突し降り注ぐ こなごなに  
降りつもれるこなごなは 原初の山々 降らすくうかんは 空になり

黒白の仔犬たち 散歩をするころには

山と空は だれかの活動の隅の奥で育ち  
その眠る先で ひとよごと 造形した

そのなか どこか 自らごうごうとはぜる たまごがひとつ

育ちあおいろを広げてゆく水彩の空を行く 縦横無尽の金の翼  
れっかを放つやうな光と熱が それぞれ動き回る夢の命を景気づける

遠く呼ぶやうな鳴き声が響き渡りつつ あとを引きゆく 古代の気流

わずかなはずの眠りのあと  
見上げれば そらには無数の 泡の星

足元の大地は あやしきもの 無数にうごめく 魔域

ひとつひとつが 超部分かつ なにかの細胞 そのなかで

かすかに 伝説だけが残った  
かつて金色の竜めく光の鳥が その光と熱のあまり わざわいをなし 勇者の矢でらっかしたと

忘れ去られたたくましく儂いきらめきを 自らすら気づかずに 首の守り石に秘め

昨日はうっかり瓶の中 今日には姿もこがらに魔法の師匠

ダイモベネミルスラ そのいぶき

溶岩をつまみに かすかに横切る 金の翼の夢をみる

まほでし・につき ②

<http://p.booklog.jp/book/70645>

著者：謡犬 ユネ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yuneutainu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/70645>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/70645>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ